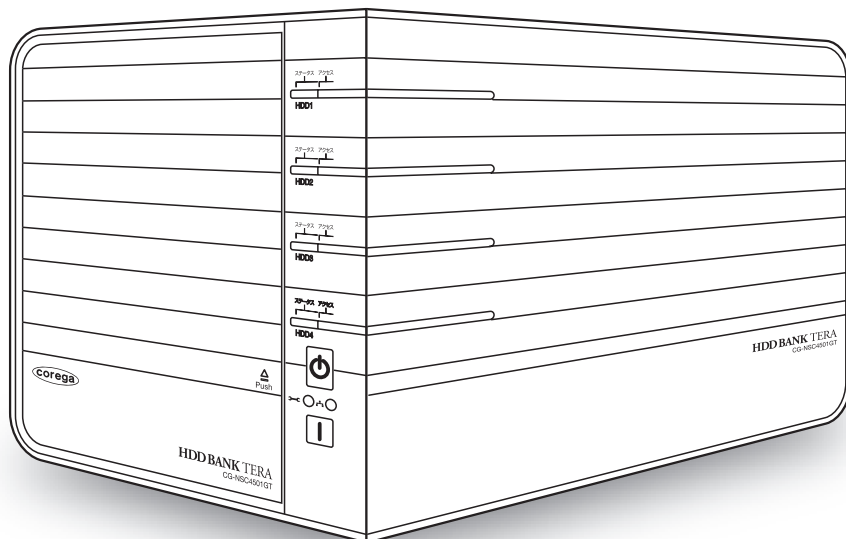




CG-NSC4501GT 詳細設定ガイド



Contents

設定画面の詳細説明

1

こんなときはこの
設定（機能編）

2

こんなときにはこの
設定（サポート編）

3

Q&A

Q&A

はじめに



このたびは、「CG-NSC4501GT」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
本書は本商品を正しくご利用いただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただけるように、大切に保管してください。
また、本商品に関する最新情報（ソフトウェアのバージョンアップ情報など）は、コレガホームページでお知らせしておりますのでご覧ください。

<http://corega.jp/>

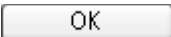
本書の読み方

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

■記号について

	操作中に気をつけていただきたい内容です。必ずお読みください。		補足事項や参考となる情報を説明しています。
---	--------------------------------	---	-----------------------

■表記について

本商品	CG-NSC4501GT のことです。
「 」 - 「 」 - 「 」	「 」 で囲まれた項目を順番に選択することを示します。
[]	[] で囲んである文字は、画面上のボタンを表します。 例：  → [OK]
Windows Vista	Microsoft® Windows Vista® Home Basic、Microsoft® Windows Vista® Home Premium、Microsoft® Windows Vista® Business および Microsoft® Windows Vista® Ultimate
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および Microsoft® Windows® XP Professional operating system
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 operating system

※本書では、複数の OS を「Windows Vista/XP」のように併記する場合があります。

■イラスト／画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

マニュアルの種類と使い方

本商品には次のマニュアルがあります。本商品をお使いになる状況に合わせて、それぞれのマニュアルをご覧ください。

■取扱説明書（冊子）

安全にお使いいただくためのご注意、本商品を使い始めるまでのセットアップ作業について説明しています。また、「Q&A」ではセットアップ時によくあるトラブルとその対処方法を説明しています。

■詳細設定ガイド（本書：PDF マニュアル）

各機能の使用方法・設定方法について詳細に説明しています。

本書の構成

本書は、本商品を使いこなすための詳細な設定方法、使い方について説明しています。本書の構成は次のとおりです。

■第 1 章 設定画面の詳細説明

この章では、設定画面を使って本商品を設定する方法について説明します。

■第 2 章 こんなときはこの設定（機能編）

この章では、ネットワークドライブの割り当て方法など、本商品を活用するための機能について説明します。

■第 3 章 こんなときにはこの設定（サポート編）

この章では、本商品の各サポート機能について説明します。

■第 4 章 Q&A

この章では、困ったときの確認方法や解決方法を説明します。

■付録

RAID について説明します。

目次

はじめに	2
本書の読み方.....	3
マニュアルの種類と使い方.....	4
本書の構成.....	4
目次	5

第 1 章

設定画面の詳細説明	9
1.1 ログイン画面.....	10
1.2 設定画面（トップページ）	11
1.3 設定ウィザード.....	12
1.4 ユーザ／グループ管理	21
1.4.1 ユーザ管理.....	22
1.4.2 グループ管理.....	24
1.4.3 アクセス容量設定	26
1.5 フォルダ／プリンタ設定.....	28
1.5.1 サービス設定.....	29
1.5.2 フォルダ設定.....	34
1.5.3 アクセス設定.....	37
1.6 RAID 設定.....	39
1.6.1 RAID 設定	39
1.6.2 ディスクアレイステータス.....	43
1.7 ネットワーク設定.....	44
1.8 システム管理.....	47
1.8.1 イベントログ.....	48
1.8.2 HDD 自動停止設定.....	49
1.8.3 メールアラート.....	50
1.8.4 ファームウェア更新	52
1.8.5 警告音設定.....	54
1.8.6 UPS（無停電電源装置）設定.....	55
1.8.7 日付／時間設定.....	56
1.8.8 再起動／シャットダウン設定.....	58
1.8.9 システム保護.....	59
1.8.10 システムステータス	60

第 2 章

こんなときはこの設定（機能編）	63
2.1 ネットワークドライブの割り当て.....	64
2.1.1 作業の前に.....	64
2.1.2 Windows Vista.....	65
2.1.3 Windows XP.....	68
2.1.4 Windows 2000	71

2.1.5	Macintosh.....	74
2.2	ごみ箱機能について.....	76
2.2.1	はじめに.....	76
2.2.2	ごみ箱機能を有効にする.....	76
2.2.3	隠しフォルダを表示する.....	77
2.2.4	ファイルを元に戻す.....	79
2.2.5	ファイルを完全に削除する.....	79
2.3	プリントサーバの設定.....	80
2.3.1	はじめに.....	80
2.3.2	Windows Vista.....	81
2.3.3	Windows XP.....	85
2.3.4	Windows 2000.....	88
2.4	アプリケーションを追加する.....	91
2.5	iTunes の音楽ファイルを共有する.....	93
2.5.1	iTunes サーバ機能を有効にする.....	93
2.5.2	音楽ファイルをコピーする.....	94
2.5.3	音楽ファイルを再生する.....	96
2.6	DLNA で共有する.....	97
2.6.1	DLNA サーバ機能を設定する.....	97
2.6.2	動画、画像、音楽ファイルをコピーする.....	98
2.6.3	DLNA 機器で再生する.....	98
2.7	USBストレージのデータをコピーする.....	99

第3章

こんなときにはこの設定（サポート編）..... 101

3.1	設定をバックアップする／元に戻す.....	102
3.1.1	設定をバックアップファイルに保存する.....	102
3.1.2	設定を元に戻す.....	103
3.2	最新のファームウェアにアップデートする.....	105
3.3	工場出荷時の状態（初期値）に戻す.....	107
3.3.1	初期化ボタンで初期化する.....	107
3.3.2	設定画面で初期化する.....	108

第4章

Q&A..... 109

4.1	トラブル対処の方法.....	110
4.2	RAID 構築時／再構築時のトラブル.....	111
4.3	ファイルを削除しても空き容量が増えない.....	112
4.4	パソコンの IP アドレスがわからない.....	113
4.5	パソコンの IP アドレスを設定する.....	114

付録	119
RAID とは	120
おことわり	124



第 1 章

設定画面の詳細説明

この章では、設定画面を使って本商品を設定する方法について説明します。

1.1 ログイン画面	10
1.2 設定画面（トップページ）.....	11
1.3 設定ウィザード.....	12
1.4 ユーザ／グループ管理	21
1.4.1 ユーザ管理	22
1.4.2 グループ管理	24
1.4.3 アクセス容量設定.....	26
1.5 フォルダ／プリンタ設定.....	28
1.5.1 サービス設定	29
1.5.2 フォルダ設定	34
1.5.3 アクセス設定	37
1.6 RAID 設定.....	39
1.6.1 RAID 設定.....	39
1.6.2 ディスクアレイステータス	43
1.7 ネットワーク設定	44
1.8 システム管理.....	47
1.8.1 イベントログ	48
1.8.2 HDD 自動停止設定.....	49
1.8.3 メールアラート	50
1.8.4 ファームウェア更新.....	52
1.8.5 警告音設定	54
1.8.6 UPS（無停電電源装置）設定	55
1.8.7 日付／時間設定	56
1.8.8 再起動／シャットダウン設定	58
1.8.9 システム保護	59
1.8.10 システムステータス.....	60

1.1 ログイン画面

本商品に接続するとログイン画面が表示されます。



①ユーザ名

本商品のユーザ名を入力します（初期値：admin）。

②パスワード

本商品のパスワードを入力します（初期値：admin）。

③[ログイン]

ユーザ名とパスワードを入力したあとでクリックするとログインします。設定画面からログアウトしたときは、[再ログイン] に表示が変わります。


1.2 設定画面（トップページ）

ログインすると設定画面（トップページ）が表示されます。



①メニュー

設定するとき使用するメニューです。

メニューの左にあるをクリックすると、詳細なメニューが表示されます。メニューをクリックすると、設定画面が開きます。

②ログアウト

クリックするとログアウトします。


③Quick Link

①でメニュー名をクリックすると、詳細なメニューが表示されます。メニューをクリックすると、設定画面が開きます。

1.3 設定ウィザード

設定ウィザードでは、簡単に本商品の設定ができます。設定の手順を説明します。

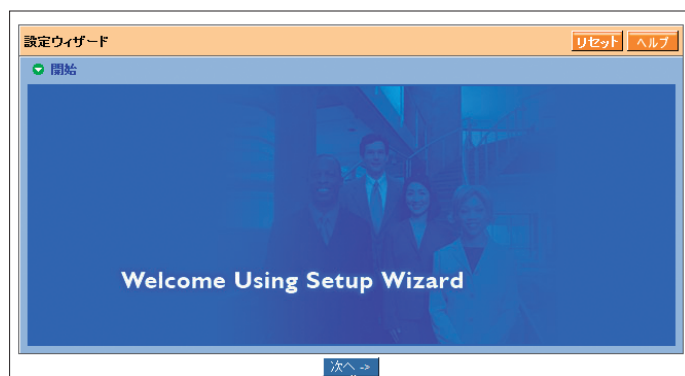
1 「Quick Link」の「設定ウィザード」をクリックします。

または、左側メニューの「設定ウィザード」の横にあるをクリックし、「設定ウィザード」をクリックします。



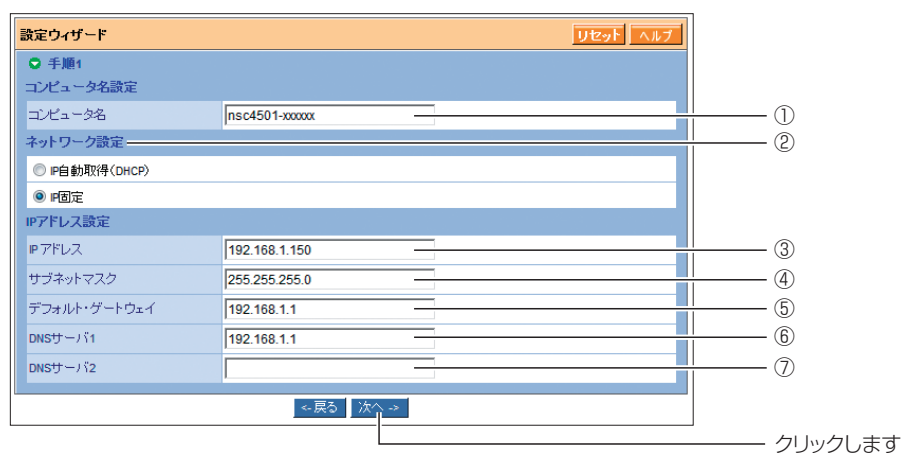
クリックします

2 「次へ」をクリックします。



クリックします

3 ネットワーク設定をします。設定したら [次へ] をクリックします。



※画面は「IP 固定」の例です。

①コンピュータ名

ネットワーク上に表示されるコンピュータ名を入力します。半角英数字および「_」(アンダーバー)で、15文字以内で入力してください。

②ネットワーク設定

「IP 自動取得 (DHCP)」(初期値)または「IP 固定」のどちらかを選択します。「IP 固定」を選択すると、IP アドレス設定 (③~⑦) が表示されます。

③ IP アドレス

IP アドレスを入力します。

④サブネットマスク

サブネットマスクのアドレスを入力します。

⑤デフォルト・ゲートウェイ

デフォルトゲートウェイのアドレスを入力します。

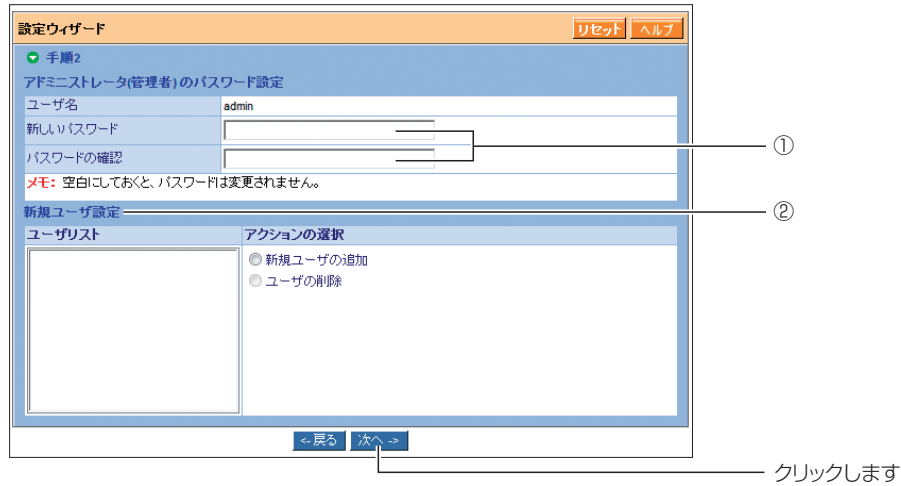
⑥ DNS サーバ 1

プライマリ DNS サーバのアドレスを入力します。

⑦ DNS サーバ 2

セカンダリ DNS サーバのアドレスを入力します。

4 パスワード設定、新規ユーザ設定をします。設定したら [次へ] をクリックします。



①新しいパスワード、パスワードの確認

変更する管理者パスワードを入力します。半角英数字および「_」(アンダーバー)で、16文字以内で入力してください。

空白にすると初期値 (admin) のまま変更されません。

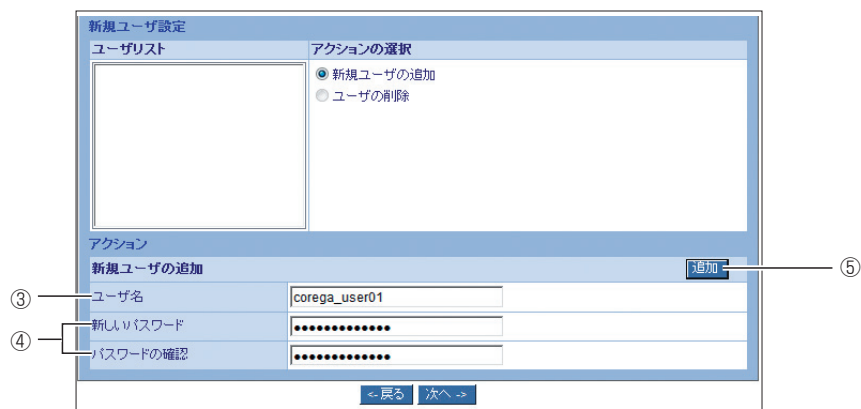
②新規ユーザ設定

必要に応じて「新規ユーザの追加」または「ユーザの削除」を選択します。

新規ユーザの追加、ユーザの削除は、P.22 「1.4.1 ユーザ管理」でも設定できます。

・新規ユーザの追加

②で「新規ユーザの追加」を選択すると、新規ユーザを作成できます。



③ユーザ名

新しいユーザ名を入力します。半角英数字および「_」(アンダーバー)で、16文字以内で入力してください。

④新しいパスワード、パスワードの確認

パスワードを入力します。半角英数字および「_」（アンダーバー）で、16 文字以内で入力してください。

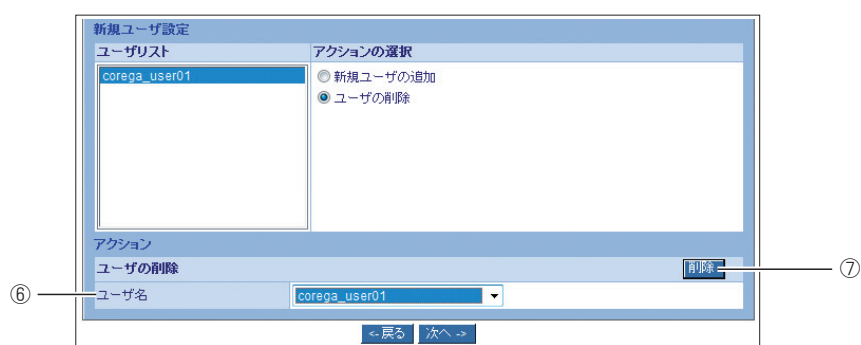
空白にする（パスワードを設定しない）ことはできません。

⑤ [追加]

クリックすると、新規ユーザを作成してユーザリストに追加します。

・ユーザの削除

②で「ユーザの削除」を選択すると、ユーザを削除できます。



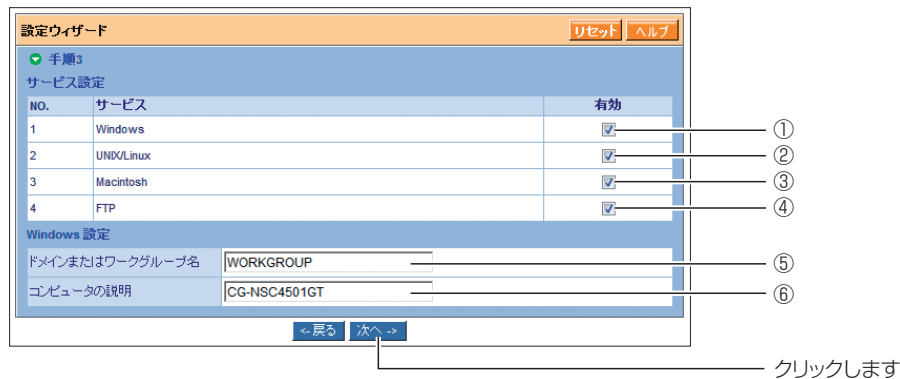
⑥ユーザ名

削除するユーザを選択します。

⑦ [削除]

クリックすると、選択したユーザをユーザリストから削除します。

5 サービス設定、Windows 設定をします。設定したら [次へ] をクリックします。



① Windows

フォルダを Windows で共有するときに、「有効」にチェックを付けます。

② UNIX/Linux

フォルダを UNIX または Linux で共有するときに、「有効」にチェックを付けます。

③ Macintosh

フォルダを Macintosh で共有するときに、「有効」にチェックを付けます。

④ FTP

フォルダを FTP サーバとして使用するときに、「有効」にチェックを付けます。

⑤ ドメイン名 (グループ名)

Windows ネットワークのドメイン名またはワークグループ名を入力します (初期値: WORKGROUP)。半角英数字および記号で、15 文字以内で入力してください。

⑥ コンピュータの説明

ネットワーク上で表示されるコンピュータの説明 (コメント) を入力します (初期値: (CG-NSC4501GT)。半角英数字および記号で、64 文字以内で入力してください。

- 6** ファイル共有設定をします。設定したら [次へ] をクリックします。フォルダを追加する場合は、「新規フォルダの追加」を選択し、ファイル共有設定をして、[次へ] をクリックします。



①フォルダリスト

作成されているボリュームとフォルダを表示します。

②アクションの選択

必要に応じて「新規フォルダの追加」または「フォルダの削除」を選択します。

新規フォルダの追加、フォルダの削除は、P.34 「1.5.2 フォルダ設定」でも設定できます。

・新規フォルダの追加

②で「新規フォルダの追加」を選択すると、新規フォルダを作成できます。



③ボリュームラベル

フォルダを追加するボリュームを選択します。お使いの環境によっては「VOLUME1」のみ表示されます。

④フォルダ名

フォルダ名を入力します。

⑤ファイルシステムの共有

共有で使用する OS にチェックを付けます。手順 5 でチェックを付けた OS には「オン」が、チェックを付けていない OS には「オフ」が表示されます。

⑥【追加】

クリックすると、新規フォルダを作成します。

・フォルダの削除

②で「フォルダの削除」を選択すると、フォルダを削除できます。



⑦ボリュームラベル

削除するフォルダのあるボリュームを選択します。お使いの環境によっては「VOLUME1」のみ表示されます。

⑧フォルダ名

削除するフォルダを選択します。

⑨【削除】

クリックすると、選択したフォルダをフォルダリストから削除します。



注意

フォルダを削除すると、フォルダ内に保存されたデータも削除されます。

7 RAID 設定をします。設定したら [次へ] をクリックします。



① RAID レベル

作成するボリュームの RAID レベルを選択します。お使いの環境によって選択できる RAID レベルが異なります。

RAID についての詳細は、P.39 「1.6.1 RAID 設定」 および P.120 「RAID とは」を参照してください。

② 空きディスク

使用していないハードディスクを表示します。

ハードディスクを選択し、>> をクリックして、③「構成ディスク」に移動します。

③ 構成ディスク

作成するボリュームで使用するハードディスクを表示します。

ハードディスクを選択し、<< をクリックすると、②「空きディスク」に戻ります。



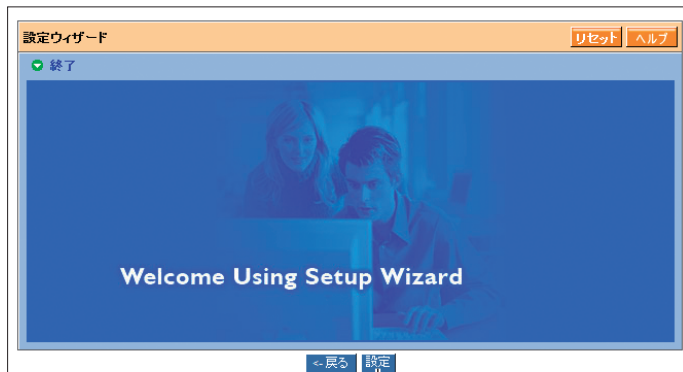
すでにボリュームを作成している場合は、現在の RAID 構成が表示されるだけで、RAID 構成を変更できません。

設定ウィザード					
手順5					
RAID 設定					
ボリュームラベル	RAID レベル	容量合計	空き容量	使用容量	RAID ステータス
VOLUME1	RAID1 (x2)	112.21 GB	110.96 GB	109 MB	稼働

RAID 構成を変更するには、P.39 「1.6.1 RAID 設定」をご覧ください。

8 「設定」をクリックします。

本商品の設定を開始します。



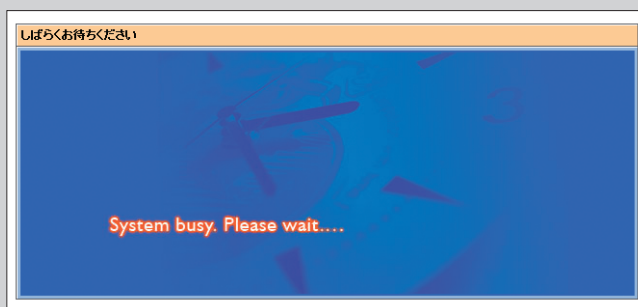
クリックします



注意

RAID の構成には時間が掛かります。次の画面が表示されている間は、絶対に本商品の電源を切ったり、パソコンをシャットダウンしたりしないでください。

本商品やハードディスクが故障するおそれがあります。



9 ログイン画面が表示されたら、再度ログインします。正常にログインできることを確認してください。

以上で、設定ウィザードは終了です。


1.4 ユーザ／グループ管理

ユーザ／グループ管理では、次の設定ができます。




・ユーザ管理

パスワードの変更、ユーザの追加、削除などができます。

 P.22 「1.4.1 ユーザ管理」


・グループ管理

グループにユーザを登録したり、グループを作成・削除したりできます。

 P.24 「1.4.2 グループ管理」

・アクセス容量設定

グループごとやユーザごとに、使用する容量を制限できます。

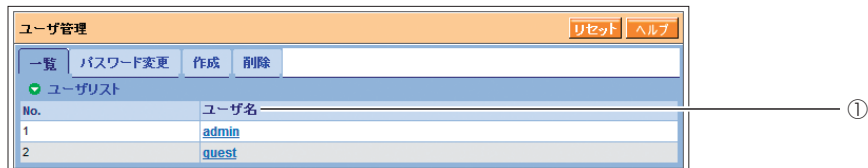
 P.26 「1.4.3 アクセス容量設定」

1.4.1 ユーザ管理

ユーザ管理には、「一覧」、「パスワード変更」、「作成」、「削除」の設定画面があります。

■ユーザ管理：一覧

ユーザリストが表示されます。



①ユーザ名

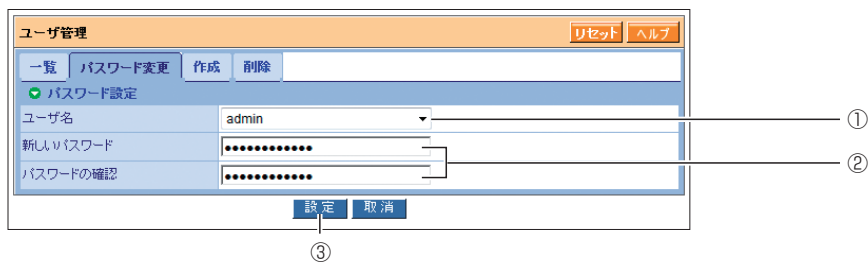
ユーザ名を表示します。ユーザ名をクリックすると、そのユーザのパスワード変更画面を表示します。



- ・ admin (管理者) ユーザのパスワードの初期値は「admin」です。
- ・ guest (ゲスト) ユーザのパスワードの初期値は空白です (設定されていません)。

■ユーザ管理：パスワード変更

パスワードを変更できます。



①ユーザ名

パスワードを変更するユーザを選択します。

一覧でユーザ名をクリックした場合は、そのユーザが表示されます。

②新しいパスワード、パスワードの確認

パスワードを入力します。半角英数字および「_」(アンダーバー)で、16文字以内で入力してください。

空白にする (パスワードを設定しない) ことはできません。

③[設定]

設定を有効にします。

■ユーザ管理：作成

新規ユーザを作成できます。

①ユーザ名

ユーザ名を入力します。半角英数字および「_」（アンダーバー）で、16 文字以内で入力してください。

②パスワード、パスワードの確認

パスワードを入力します。半角英数字および「_」（アンダーバー）で、16 文字以内で入力してください。

空白にする（パスワードを設定しない）ことはできません。

③【設定】

ユーザを作成します。

■ユーザ管理：削除

ユーザを削除できます。

①ユーザ名

ユーザを選択します。admin（管理者）および guest（ゲスト）は削除できません。

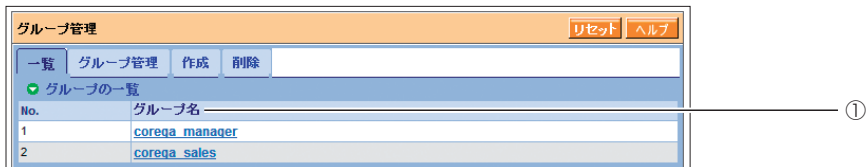
②【設定】

ユーザを削除します。クリックすると確認画面が表示されますので、[OK] をクリックします。

1.4.2 グループ管理

グループ管理には、「一覧」、「グループ管理」、「作成」、「削除」の設定画面があります。

■グループ管理：一覧



①グループ名

グループ名を表示します。グループ名をクリックすると、そのグループのグループ管理画面を表示します。

■グループ管理：グループ管理



①グループ名

グループを選択します。

一覧でグループ名をクリックした場合は、そのグループが表示されます。

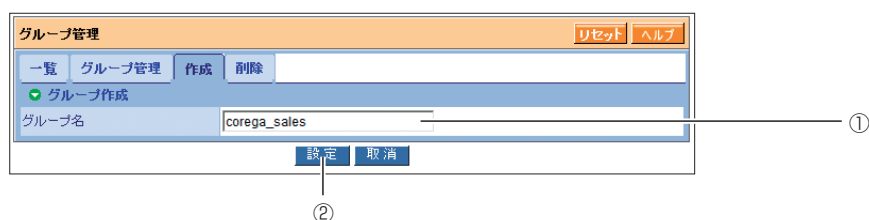
②ユーザ

登録するユーザを選択し、>>をクリックすると、①で選択したグループにユーザが登録されます。

③グループユーザ

①で選択したグループに登録されたユーザが表示されます。ユーザを選択し、<<をクリックすると、グループから削除されます。

■グループ管理：作成



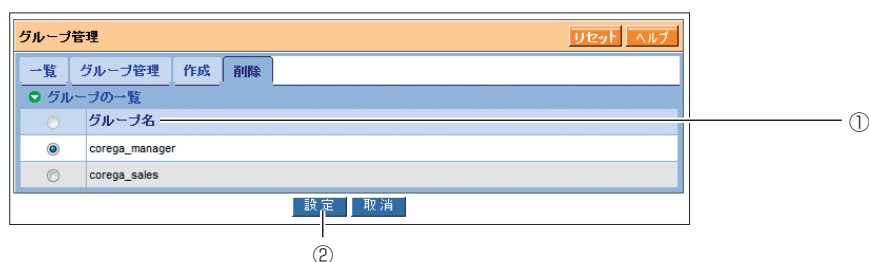
①グループ名

グループ名を入力します。半角英数字および「_」（アンダーバー）で、16 文字以内で入力してください。

②【設定】

グループを作成します。

■グループ管理：削除



①グループ名

削除するグループを選択します。

②【設定】

選択したグループを削除します。クリックすると確認画面が表示されますので、[OK] をクリックします。

1.4.3 アクセス容量設定

アクセス容量設定には、「ステータス」、「設定」の設定画面があります。

■アクセス容量設定：ステータス

グループとユーザ	ボリューム	アクセス容量設定	使用量	空き容量	使用率
@corega_001	VOLUME1	無制限	0.00 MB		
@corega_002	VOLUME1	無制限	0.00 MB		
corega_user01	VOLUME1	無制限	0.00 MB		
corega_user02	VOLUME1	無制限	0.00 MB		
guest	VOLUME1	無制限	0.00 MB		

①ボリューム

アクセス容量設定の一覧を表示するボリュームを選択します。

②割当情報の一覧

グループまたはユーザに割り当てられている容量、使用量などを表示します。

■アクセス容量設定：設定



①ボリューム

ボリュームを選択します。

②グループとユーザ

アクセス容量を設定するグループまたはユーザを選択します。グループ名の前には「@」が付いています。

③容量の設定

・無制限

容量の制限をしません（初期値）。

・容量設定

最大容量を指定できます。MB 単位で入力します。

④【設定】

設定を有効にします。ステータス画面で設定を確認してください。

1.5 フォルダ／プリンタ設定

フォルダ／プリンタ設定では、次の設定ができます。



・ サービス設定

使用する OS のサービスを設定します。また、FTP サーバ、プリントサーバの設定もできます。

🔗 P.29 「1.5.1 サービス設定」

・ フォルダ設定

フォルダを作成・削除できます。

🔗 P.34 「1.5.2 フォルダ設定」

・ アクセス設定

グループごとやユーザごとに、アクセス権限を設定できます。

🔗 P.37 「1.5.3 アクセス設定」

1.5.1 サービス設定

サービス設定には、「Windows」、「UNIX / Linux」、「Macintosh」、「FTP」、「プリントサーバ」の設定画面があります。

■サービス設定：情報

プロトコル制御			
情報 Windows UNIX/Linux FTP プリントサーバ			
<input checked="" type="checkbox"/> プロトコルリスト			
プロトコル	ステータス	アクション	
Windows	ON	無効	
UNIX/Linux	ON	無効	
FTP	ON	無効	
プリントサーバ	OFF	有効	
Macintosh	ON	無効	
<input checked="" type="checkbox"/> アプリケーションプラグイン			
アプリケーション	ステータス	バージョン	アクション

■サービス設定：Windows

サービス設定	
情報 Windows UNIX/Linux FTP プリントサーバ	
<input checked="" type="checkbox"/> Windows 設定	
サービス	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
コンピュータ名	NSC4501-XXXXXX
コンピュータの説明	CG-NSC4501GT
ごみ箱機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
メソッド	<input checked="" type="radio"/> ADドメイン <input type="radio"/> ワークグループ
ドメイン名/グループ名	
Kerberos キー配送センター (KDC)	
アドミニストレータ名	
アドミニストレータのパスワード	
<input type="button" value="設定"/> <input type="button" value="取消"/>	

⑩

※「ADドメイン」選択時

サービス設定	
情報 Windows UNIX/Linux FTP プリントサーバ	
<input checked="" type="checkbox"/> Windows 設定	
サービス	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
コンピュータ名	NSC4501-XXXXXX
コンピュータの説明	CG-NSC4501GT
ごみ箱機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
メソッド	<input type="radio"/> ADドメイン <input checked="" type="radio"/> ワークグループ
ドメイン名/グループ名	WORKGROUP
<input type="button" value="設定"/> <input type="button" value="取消"/>	

⑩

※「ワークグループ」選択時

①サービス

・有効

Windows マシンで本商品のボリュームにアクセスできます。

・無効

Windows マシンで本商品のボリュームにアクセスできません。

②コンピュータ名

本商品に設定されているコンピュータ名を表示します。

③コンピュータの説明

ネットワーク上で表示されるコンピュータの説明（コメント）を入力します。半角英数字および記号で、15 文字以内で入力してください。

④ごみ箱機能

・有効

ごみ箱機能を使用します。

・無効

ごみ箱機能を使用しません（初期値）。



ごみ箱機能についての詳細は、P.76 「2.2 ごみ箱機能について」をご覧ください。

⑤メンバ

・AD ドメイン

AD（Active Directory）ドメイン環境で使用します。

・ワークグループ

ワークグループ環境で使用します。

⑥ドメイン名／グループ名

ドメイン名またはワークグループ名を入力します。半角英数字および記号で、64 文字以内で入力してください。

⑦ Kerberos キー配送センター（KDC）

Kerberos 認証のサーバ名を入力します。

⑧アドミニストレータ名

アドミニストレータ名を入力します。

⑨アドミニストレータのパスワード

アドミニストレータのパスワードを入力します。

⑩ [設定]

設定を有効にします。

■サービス設定 : UNIX / Linux

サービス設定

情報 Windows UNIX/Linux FTP プリントサーバ

UNIX/Linux 設定

サービス 有効 無効

NIS ドメイン設定

NIS ドメイン 有効 無効

NIS ドメイン名

設定 取消

① サービス

・有効

UNIX および Linux マシンで本商品のボリュームにアクセスできます。

・無効

UNIX および Linux マシンで本商品のボリュームにアクセスできません。

② NIS ドメイン

・有効

NIS (Network Information Service) ドメインを使用します。

・無効

NIS ドメインを使用しません (初期値)。

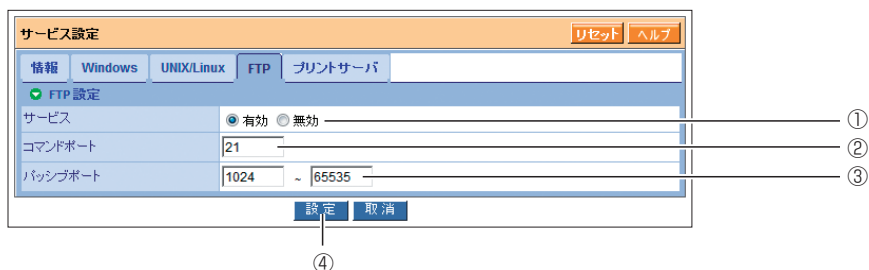
③ NIS ドメイン名

NIS ドメイン名を入力します。

④ [設定]

設定を有効にします。

■サービス設定：FTP



①サービス

- ・有効
FTP サーバとして使用します。
- ・無効
FTP サーバとして使用しません。

②コマンドポート

コマンドポートとして使用するポート番号を入力します（初期値：21）。

③パッシブポート

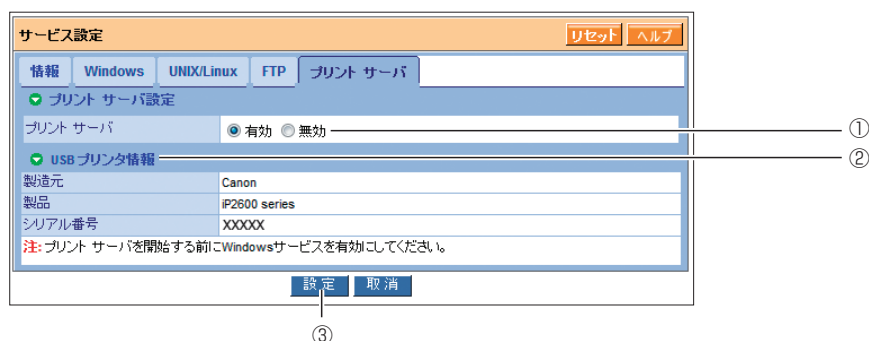
パッシブポートとして使用するポート番号の範囲を入力します（初期値：1024～65535）。

④【設定】

設定を有効にします。

■サービス設定：プリントサーバ設定

※プリンタを接続した場合のみ表示されます。



① プリントサーバ

- ・ 有効
プリントサーバ機能を使用します。
- ・ 無効
プリントサーバ機能を使用しません。

② USB プリンタ情報

接続されている USB プリンタの製造元、製品名などを表示します。USB プリンタが接続されているときのみ表示されます。

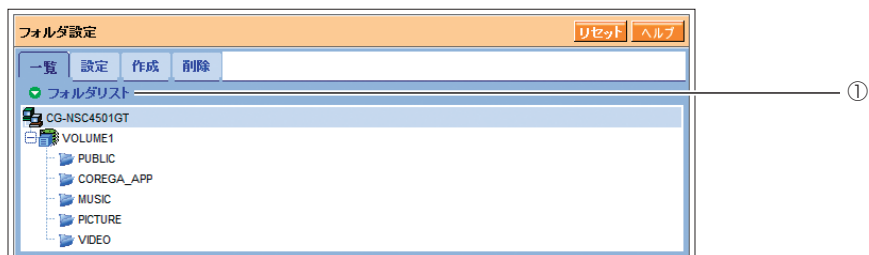
③ [設定]

設定を有効にします。

1.5.2 フォルダ設定

フォルダ設定は、「一覧」、「設定」、「作成」、「削除」の設定画面があります。

■フォルダ設定：一覧

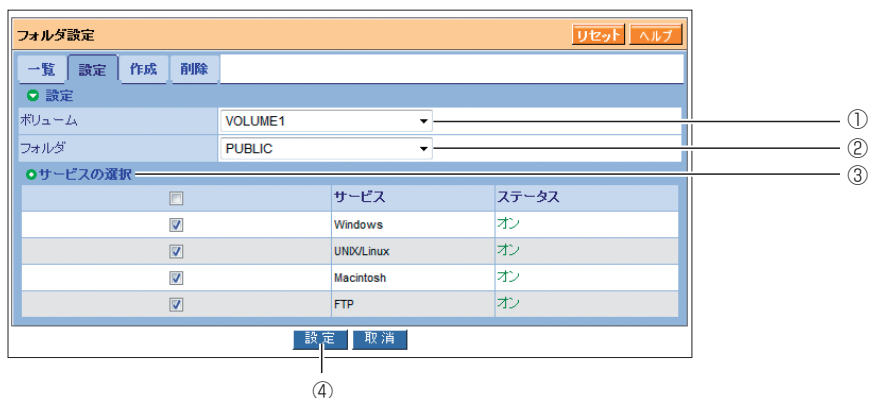


①フォルダリスト

ボリュームおよびフォルダを表示します。

フォルダ名をクリックするとそのフォルダの設定画面を表示します。

■フォルダ設定：設定



①ボリューム

ボリュームを選択します。

②フォルダ

設定を変更するフォルダを選択します。

③サービスの選択

チェックを付けたサービスで、フォルダが使用できるようになります。
 「ステータス」は、P.29 「1.5.1 サービス設定」で有効になっているサービスは「オン」を、無効になっているサービスには「オフ」を表示します。



チェックを外すと、ステータスが「オン」でも、フォルダの共有はできません。

④【設定】

設定を有効にします。

■フォルダ設定：作成

サービス	ステータス
<input checked="" type="checkbox"/> Windows	オン
<input checked="" type="checkbox"/> UNIX/Linux	オン
<input checked="" type="checkbox"/> Macintosh	オン
<input checked="" type="checkbox"/> FTP	オン

①ボリューム

ボリュームを選択します。

②フォルダ名

フォルダ名を入力します。

③サービスの選択

チェックを付けたサービスで、ステータスが「オン」の場合にフォルダが使用できるようになります。

「ステータス」は、P.29 「1.5.1 サービス設定」で有効になっているサービスは「オン」を、無効になっているサービスには「オフ」を表示します。

④【設定】

新規フォルダを作成します。

■フォルダ設定：削除



①フォルダリスト

削除するフォルダを選択します。

「PUBLIC」および「COREGA_APP」フォルダは、本商品の情報が保存されているため削除できません。

②【設定】

フォルダを削除します。クリックすると確認画面が表示されますので、[OK] をクリックします。



フォルダを削除すると、フォルダ内に保存されたデータも削除されます。

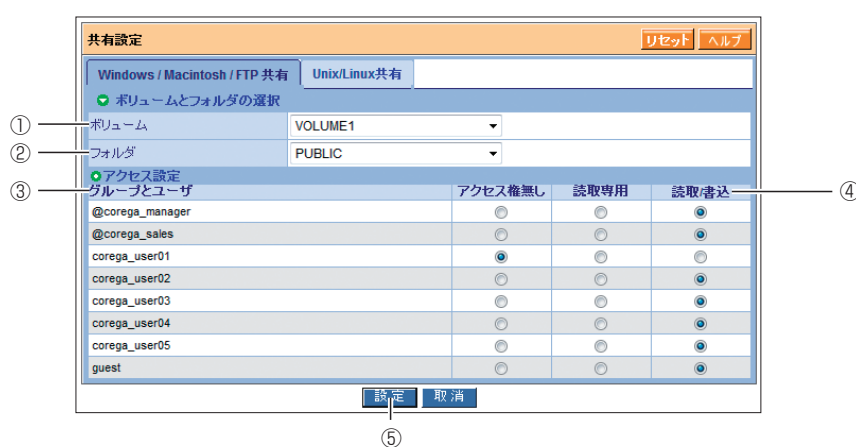
1.5.3 アクセス設定

アクセス設定は、「Windows / Macintosh / FTP 共有」、「Unix / Linux 共有」の設定画面があります。



- ・ Public フォルダのアクセス設定は、「admin」が読み込み / 書き込み、そのほかのすべてのユーザが読み込みのみで設定されています。
- ・ Public フォルダのアクセス設定は変更できません。

■アクセス設定 : Windows / Macintosh / FTP 共有



①ボリューム

ボリュームを選択します。

②フォルダ

フォルダを選択します。

③グループとユーザ

アクセス容量を設定するグループまたはユーザを選択します。グループ名の前には「@」が付いています。

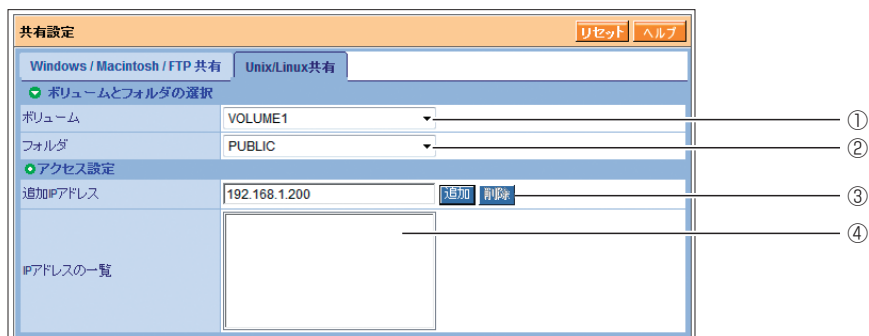
④アクセス権限

- ・ **アクセス権なし**
読み取り、書き込みともにできません。
- ・ **読取専用**
読み取りだけです。書き込むことはできません。
- ・ **読取 / 書込**
読み取り、書き込みともにできます。

⑤ [設定]

設定を有効にします。

■ アクセス設定 : Unix / Linux 共有



① ボリューム

ボリュームを選択します。

② フォルダ

フォルダを選択します。

③ 追加 IP アドレス

IP アドレスを入力して [追加] をクリックすると、アクセスできるようになります。

④ IP アドレスの一覧

アクセスできる IP アドレスの一覧を表示します。IP アドレスを選択して [削除] をクリックすると、アクセスできなくなります。

1.6 RAID 設定

RAID 設定では、次の設定ができます。




・ RAID 設定

RAID の設定、変更、削除などができます。

 P.39 「1.6.1 RAID 設定」

・ ディスクアレイステータス

ボリュームの情報を表示できます。

 P.43 「1.6.2 ディスクアレイステータス」

1.6.1 RAID 設定

RAID 設定には、「ディスクステータス」、「変更」、「作成」、「削除」、「回復」の設定画面があります。

■ RAID 設定：ディスクステータス



①ディスク一覧

ボリューム名をクリックすると、ディスクステータスに RAID レベルや容量などを表示します。

ディスク名をクリックすると、ディスクステータスにハードディスクの詳細な情報を表示します。

②ディスクステータス

RAID やハードディスクの情報を表示します。

■ RAID 設定 : 変更



① ボリューム

RAID の設定を変更するボリュームを選択します。

② RAID レベル

現在の RAID レベルを表示します。

③ RAID 構成済みディスク

RAID を構成しているハードディスクを表示します。

④ RAID レベル設定

・ RAID 0

ストライピングを構成します。ハードディスクは 1 台または 2 台必要です。

・ RAID 1

ミラーリングを構成します。ハードディスクは 2 台必要です。



- ・ ハードディスクの台数によって設定できる項目が異なります。
- ・ RAID についての詳細は、P.120 「RAID とは」をご覧ください。

⑤ 空きディスク

ハードディスクを選択し、>>をクリックして、構成ディスクに追加します。

⑥ 構成ディスク

ハードディスクを選択し、<<をクリックすると、構成ディスクから削除されます。

すでに RAID 構成されているハードディスクは表示されません。

⑦ [設定]

設定を有効にします。



- ・ RAID の構成には時間が掛かります。「System busy」と表示されている間は、絶対に本商品の電源を切ったり、パソコンをシャットダウンしたりしないでください。本商品やハードディスクが故障するおそれがあります。
- ・ RAID ボリュームの構成を変更すると、ボリューム内に保存されたデータは消去されます。

■ RAID 設定：作成



① RAID レベル

- ・ RAID 0
1 ～ 4 台のハードディスクで構成できます。
- ・ RAID 1
2 台のハードディスクでのみ構成できます。
- ・ RAID 5
3 ～ 4 台のハードディスクで構成できます。
- ・ RAID 5 +スペア
4 台のハードディスクでのみ構成できます。
- ・ RAID 10
4 台のハードディスクでのみ構成できます。
- ・ スペアディスク
1 台のハードディスクで構成します。



- ・ハードディスクの台数によって設定できる項目が異なります。
- ・RAID についての詳細は、P.120 「RAID とは」 をご覧ください。

②空きディスク

ハードディスクを選択し、<<をクリックして、構成ディスクに追加します。

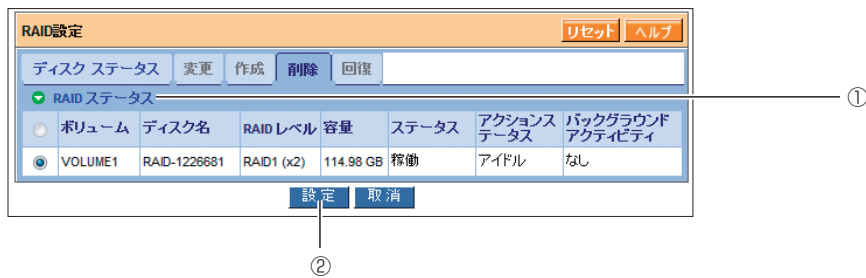
③構成ディスク

ハードディスクを選択し、>>をクリックすると、空きディスクに移動します。

④【設定】

設定を有効にします。

■ RAID 設定：削除



① RAID ステータス

削除するボリュームを選択します。

②【設定】

ボリュームを削除します。クリックすると確認画面が表示されますので、「YES」と入力し、[OK] をクリックします。



RAID ボリュームを削除すると、ボリューム内に保存されたデータは消去されます。

■ RAID 設定：回復



①回復リスト

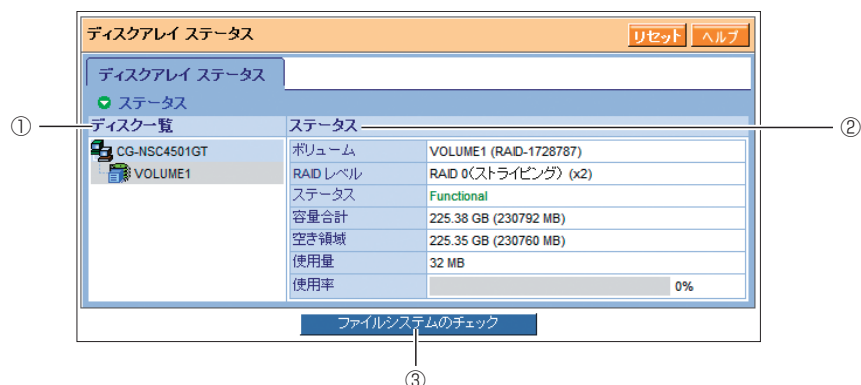
回復するボリュームを選択します。

②【設定】

ボリュームを回復します。クリックすると確認画面が表示されますので、「YES」と入力し、「OK」をクリックします。

1.6.2 ディスクアレイステータス

ディスクアレイの状態を表示します。



①ディスク一覧

ボリューム名をクリックすると、ステータスに RAID レベルや容量などを表示します。
ディスク名をクリックすると、ステータスにハードディスクの詳細な情報を表示します。

②ステータス

RAID やハードディスクの情報を表示します。

③【ファイルシステムのチェック】

ファイルシステムをチェックします。クリックすると確認画面が表示されますので、「OK」をクリックします。

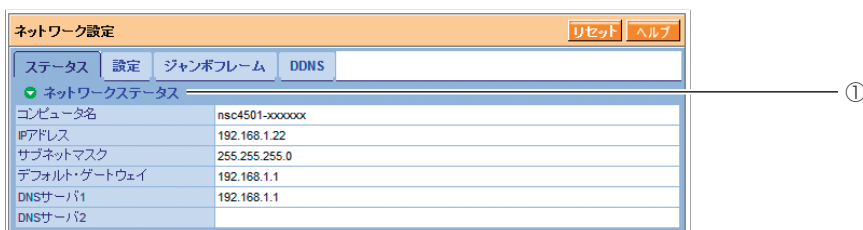
1.7 ネットワーク設定

ネットワーク設定では、本商品のネットワーク設定ができます。

ネットワーク設定には、「ステータス」、「設定」、「ジャンボフレーム」、「ダイナミック DNS」の設定画面があります。



■ネットワーク設定：ステータス



① ネットワークステータス

ネットワーク設定を表示します。

■ネットワーク設定：設定



① コンピュータ名

ネットワーク上に表示されるコンピュータ名を入力します。半角英数字および記号で、15文字以内で入力してください。

②インターネットプロトコル

「IP 自動取得 (DHCP)」または「IP 固定」のどちらかを選択します。
「IP 固定」を選択すると、IP アドレス設定 (③~⑦) が表示されます。

③ IP アドレス

IP アドレスを入力します。

④サブネットマスク

サブネットマスクのアドレスを入力します。

⑤デフォルト・ゲートウェイ

デフォルトゲートウェイのアドレスを入力します。

⑥ DNS サーバ 1

プライマリ DNS サーバのアドレスを入力します。

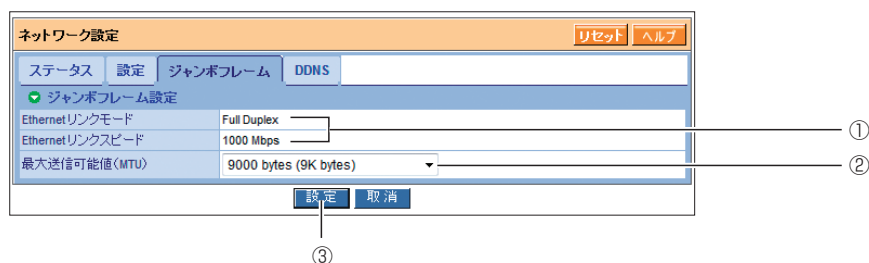
⑦ DNS サーバ 2

セカンダリ DNS サーバのアドレスを入力します。

⑧【設定】

設定を有効にします。

■ネットワーク設定：ジャンボフレーム



① Ethernet リンクモード、Ethernet リンクスピード

リンクモードとリンクスピードを表示します。

②最大送信可能値 (MTU)

最大フレームサイズを選択します (初期値：1500 バイト)。

③【設定】

設定を有効にします。



- ・接続する LAN アダプタまたはスイッチングハブが、ジャンボフレームに対応しているときのみ設定できます。
- ・接続する機器によって、②最大送信可能値 (MTU) の値が異なります。接続する機器と同じ値に設定してください。

■ネットワーク設定：ダイナミック DNS

ダイナミック DNS (DDNS) サービスを使用すると、インターネットからダイナミック DNS サービス名で本商品に接続できます。

①サービス

- ・有効
ダイナミック DNS サービスを使用します。
- ・無効
ダイナミック DNS サービスを使用しません。

② DDNS 名

ダイナミック DNS サービスに登録したドメイン名を入力します。

③登録者名

ダイナミック DNS サービスに登録したログイン ID を入力します。

④ログインパスワード

ダイナミック DNS サービスに登録したパスワードを入力します。

⑤【設定】

設定を有効にします。



対応するダイナミック DNS サービスは、DynDNS (<http://www.dyndns.com>) のみです。


1.8 システム管理

システム管理では、次の情報の表示や設定ができます。



・ イベントログ

イベントログを表示します。

 P.48 「1.8.1 イベントログ」


・ HDD 自動停止設定

ハードディスクの回転を停止させ、消費電力を抑えることができます。

 P.49 「1.8.2 HDD 自動停止設定」


・ メールアラート

イベントログに連動してメールを送信できます。

 P.50 「1.8.3 メールアラート」


・ ファームウェア更新

ファームウェアを更新できます。

 P.52 「1.8.4 ファームウェア更新」

・ 警告音設定

警告音の有無を設定できます。

 P.54 「1.8.5 警告音設定」


・ UPS（無停電電源装置）設定

UPS（無停電電源装置）を使用するときにシャットダウン方法を設定できます。

 P.55 「1.8.6 UPS（無停電電源装置）設定」

・ 日付／時間設定

日時設定、インターネット時刻サーバとの時刻を同期する設定ができます。

 P.56 「1.8.7 日付／時間設定」

- ・再起動/シャットダウン設定

再起動またはシャットダウンします。

🔗 P.58 「1.8.8 再起動/シャットダウン設定」

- ・システム保護

システムファイルをバックアップしたり、バックアップしたデータを読み込んで設定を戻すことができます。

🔗 P.59 「1.8.9 システム保護」

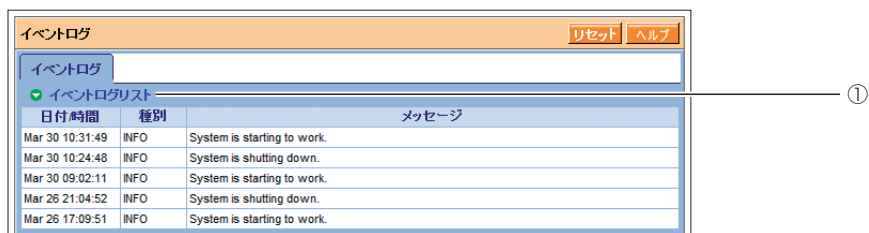
- ・システムステータス

システムの状態を表示します。

🔗 P.60 「1.8.10 システムステータス」

1.8.1 イベントログ

■イベントログ：イベントログ



The screenshot shows a window titled "イベントログ" (Event Log) with "リセット" (Reset) and "ヘルプ" (Help) buttons. Below the title bar, there is a tab labeled "イベントログ" and a sub-tab "イベントログリスト" (Event Log List) with a green checkmark. A table displays the event log entries with columns for "日付/時間" (Date/Time), "種別" (Type), and "メッセージ" (Message). A circled number 1 points to the "イベントログリスト" sub-tab.

日付/時間	種別	メッセージ
Mar 30 10:31:49	INFO	System is starting to work.
Mar 30 10:24:48	INFO	System is shutting down.
Mar 30 09:02:11	INFO	System is starting to work.
Mar 26 21:04:52	INFO	System is shutting down.
Mar 26 17:09:51	INFO	System is starting to work.

※画面は例です。

①イベントログリスト

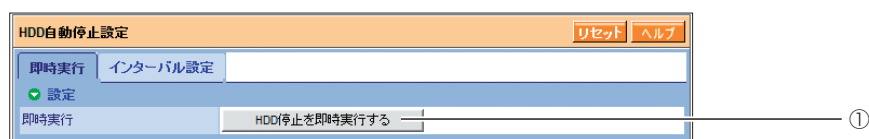
イベントが発生した日時、メッセージを表示します。

1.8.2 HDD 自動停止設定

ハードディスクの回転を停止させることで、消費電力を抑えることができます。

■ HDD 自動停止設定：即時実行

ハードディスクの回転をすぐに停止させます。データの読み書きなどハードディスクにアクセスするとすぐに回転を再開します。

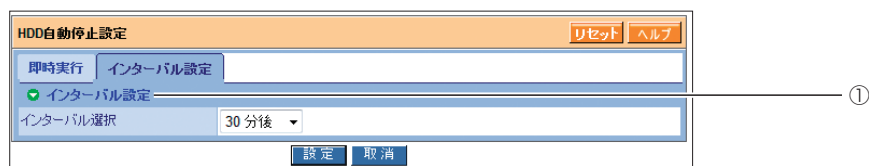


① [HDD 停止を即時実行する]

クリックすると、ハードディスクの回転を停止します。

■ HDD 自動停止設定：インターバル設定

設定された時間ハードディスクへのアクセスがなかった場合にハードディスクの回転を停止させます。データの読み書きなどハードディスクにアクセスするとすぐに回転を再開します。



① インターバル設定

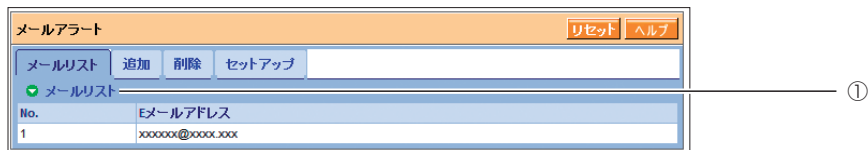
ハードディスクに最後にアクセスしてから、①で選択した時間が経過すると、ハードディスクの回転を停止します（初期値：なし）。「なし」の場合はハードディスクが常に回転します。

1.8.3 メールアラート

メールアラート機能は、イベントログにログが記録されると、そのログの内容をメールで送信します。本商品が離れた場所にあっても、エラーなどの情報を入手できます。

メールアラートでは、「メールリスト」、「追加」、「削除」、「セットアップ」の設定画面があります。

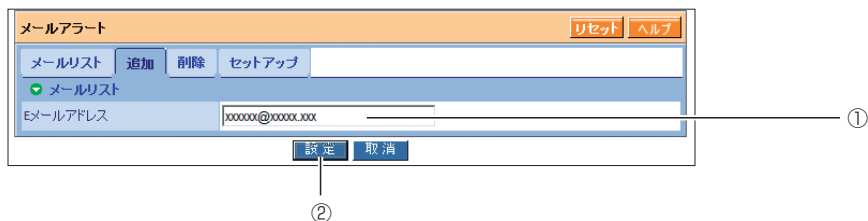
■メールアラート：メールリスト



①メールリスト

登録されているメールアドレスが表示されます。

■メールアラート：追加



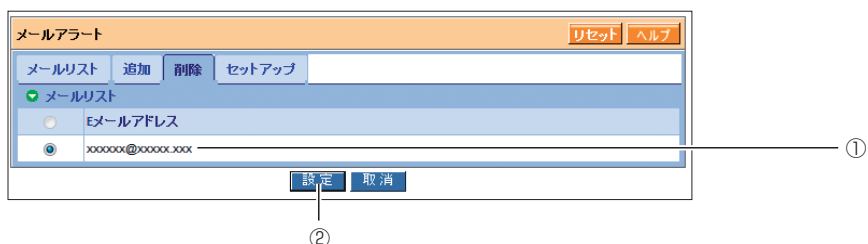
① E メールアドレス

メールアドレスを入力します。

②【設定】

メールアドレスを登録します。

■メールアラート：削除



①メールリスト

削除するメールアドレスを選択します。

②【設定】

選択したメールアドレスを削除します。

■メールアラート：セットアップ

① サービス

- ・ 有効
メールアラート機能を使用します。
- ・ 無効
メールアラート機能を使用しません。

② SMTP サーバ

SMTP サーバの IP アドレスまたは DNS 名を入力します。

③ コマンドポート

SMTP サーバのポート番号を入力します。

④ 送付元メールアドレス

メールの送信元に表示する名称を入力します。

⑤ SMTP 認証

- ・ はい
SMTP 認証を使用します。⑤「ユーザ名」および⑥「パスワード」を入力します。
- ・ いいえ
SMTP 認証を使用しません。

⑥ ユーザ名

SMTP 認証で使用するユーザ名を入力します。

⑦ パスワード

SMTP 認証で使用するパスワードを入力します。

⑧ [設定]

設定を有効にします。

1.8.4 ファームウェア更新

本商品のファームウェア更新することや、アプリケーションを追加することができます。
ファームウェア更新には、「ファームウェア更新」と「アプリケーションの追加」の設定画面があります。



ファームウェアの更新中は、絶対に本商品の電源を切ったり、パソコンをシャットダウンしたりしないでください。本商品が故障するおそれがあります。
ファームウェアを更新する前に、本商品のシステムやハードディスクのデータをバックアップしてください。



最新のファームウェアファイル、追加アプリケーションファイルは、コレガホームページ (<http://corega.jp/>) からダウンロードできます（提供時期は未定です）。

■ファームウェア更新：ファームウェア更新

①ボリューム

ファームウェアファイルを保存したボリュームを選択します。

②フォルダ

ファームウェアファイルを保存したフォルダを選択します。

③ファイル名

ファームウェアファイルのファイル名を入力します。

④【設定】

ファームウェアを更新します。

■ファームウェア更新：アプリケーションの追加

ファームウェア更新

リセット ヘルプ

ファームウェア更新 アプリケーションの追加 プラグインの削除

プラグイン

ボリューム VOLUME1

フォルダ COREGA_APP

ファイル名 dlna_plugin_xxxxx.ppg

設定 取消

①ボリューム

追加するアプリケーションファイルを保存したボリュームを選択します。

②フォルダ

追加するアプリケーションファイルを保存したフォルダを選択します。

③ファイル名

追加するアプリケーションファイルのファイル名を入力します。

④【設定】

アプリケーションを追加します。

■ファームウェア更新：アプリケーションの削除

ファームウェア更新

リセット ヘルプ

ファームウェア更新 アプリケーションの追加 プラグインの削除

アプリケーションリスト

アプリケーション	バージョン	ステータス
DLNA Server	XX.XX	ON
Firefly Media Server	XX.XX	OFF

設定 取消

①アプリケーション

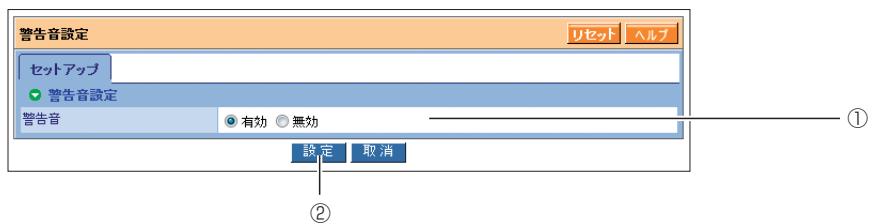
削除するアプリケーションを選択します。

②【設定】

選択したアプリケーションを削除します。

1.8.5 警告音設定

■警告音設定：セットアップ



①警告音

・有効

本商品にエラーが発生したときに、警告音を鳴らします（初期値）。

・無効

警告音を鳴らしません。

②【設定】

設定を有効にします。

1.8.6 UPS（無停電電源装置）設定

UPS（無停電電源装置）設定には、「ステータス」と「設定」の設定画面があります。

■ UPS（無停電電源装置）設定：ステータス

※ UPS（無停電電源装置）を接続した場合のみ表示されます。

UPS(無停電電源装置)設定	
製造元	American Power Conversion
製品名	Smart-UPS
シリアル番号	
サービスステータス	オフ

①ステータス

UPS（無停電電源装置）の情報を表示します。

■ UPS（無停電電源装置）設定：設定

UPS(無停電電源装置)設定	
動作	設定
<input checked="" type="radio"/> 無効	
<input type="radio"/> バッテリ残量(%)でシステムシャットダウン	[] %
<input type="radio"/> バッテリでUPS動作後、システムシャットダウン	[] 分

①無効

UPS が動作しません。

②バッテリー残量（%）でシステムシャットダウン

UPS のバッテリー残量が指定した割合になるとシャットダウンします（設定単位：％）。

③バッテリーで UPS 動作後、システムシャットダウン

指定した時間でシャットダウンします（設定単位：分）。

④[設定]

設定を有効にします。

1.8.7 日付／時間設定

日付／時間設定には、「設定」、「時間帯」、「NTP」の設定画面があります。

■日付／時間設定：設定

①年、月、日、時刻

数値を選択します。

②【設定】

設定を有効にします。

■日付／時間設定：時間帯

①時間帯

時間帯（タイムゾーン）を選択します（初期値：(GMT+9:00) 東京、ソウル、大阪、札幌、ヤクーツク）。

②夏時間に時計を調整する

夏時間（サマータイム）を導入するときにチェックを付け、調整する時間を選択します。

③【設定】

設定を有効にします。

■日付／時間設定：NTP

① NTP サーバアドレス

本商品の内部時計をインターネット時刻サーバと同期します。同期するサーバのサーバ名または IP アドレスを入力します。

②最終同期時間

前回同期した日時を表示します。同期していない場合は表示されません。

③最終同期結果

前回同期したときの状態を表示します。

④無効

時刻の同期機能を使用しません（初期値）。

⑤実行

〔設定〕をクリックしたときに、一度だけ時刻を同期します。

⑥毎時

設定した時間間隔で時刻を同期します（初期値：1 時間）。

⑦毎日

設定した時間に時刻を同期します（初期値：0 時 0 分）。

⑧毎週

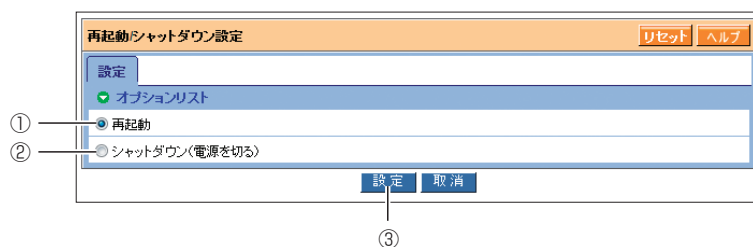
設定した曜日と時間に時刻を同期します（初期値：日曜日、0 時 0 分）。

⑨〔設定〕

設定を有効にします。⑤実行を選択したときは、すぐに時刻を同期します。

1.8.8 再起動／シャットダウン設定

■再起動／シャットダウン設定：設定



①再起動

本商品を再起動します。

②シャットダウン（電源を切る）

本商品の電源を切ります。

③【設定】

再起動またはシャットダウンを実行します。

1.8.9 システム保護

システム保護には、「システムバックアップ設定」と「システム回復設定」の設定画面があります。

■システム保護：システムバックアップ設定

①ボリューム

ボリュームを選択します。

②フォルダ

システムファイルのバックアップを保存するフォルダを選択します。

③【設定】

設定を有効にします。

■システム保護：システム回復設定

①ボリューム

ボリュームを選択します。

②フォルダ

システムファイルのバックアップを保存したフォルダを選択します。

③ファイル名

バックアップしたシステムファイルのファイル名を入力します。

④【設定】

システムをバックアップしたときの状態に戻します。クリックすると確認画面が表示されますので、「YES」と入力し、「OK」をクリックします。

1.8.10 システムステータス

■システムステータス：システムステータス



①バージョン

ファームウェアのバージョンを表示します。

② CPU

本商品の CPU を表示します。

③ネットワークアダプタ

本商品のネットワークアダプタを表示します。

④ネットワークフロー

ネットワークの通信速度を表示します。

⑤ CPU 温度の正常範囲

CPU 温度を表示します。

⑥システムファンスピードの正常範囲

システムファンの回転数を表示します。

⑦電源ステータス

電源の状態を表示します。

⑧検索

本商品を複数台お使いのときに、どの機器にログインしているかを調べるために、ブザーを鳴らします。[検索] をクリックするとブザーが鳴り、同時にシステムステータス LED が点滅します。

⑨ファン設定

ファンの回転数を使用状況に応じて制御します。ファンの回転音を低減させることや、消費電力を抑えることができます。

- ・ 有効

ファンコントロールを有効にします（初期値）。

- ・ 無効

ファンコントロールを無効にします。ファンは最速で回転します。

⑩【設定】

ファンコントロールの設定を有効にします。

第2章

こんなときはこの設定（機能編）


この章では、ネットワークドライブの割り当て方法など、本商品を活用するための機能について説明します。

2.1 ネットワークドライブの割り当て	64
2.2 ごみ箱機能について	76
2.3 プリントサーバの設定	80
2.4 アプリケーションを追加する	91
2.5 iTunes の音楽ファイルを共有する	93
2.6 DLNA で共有する	97
2.7 USB ストレージのデータをコピーする	99


2.1 ネットワークドライブの割り当て

OS ごとにネットワークドライブの割り当て方法を説明します。


- Windows Vista

 P.65 「2.1.2 Windows Vista」


- Windows XP

 P.68 「2.1.3 Windows XP」

- Windows 2000

 P.71 「2.1.4 Windows 2000」


- Macintosh

 P.74 「2.1.5 Macintosh」



ネットワークドライブとして割り当てることができるのは、ボリューム直下のフォルダのみです。サブフォルダをネットワークドライブとして割り当てることはできません。

本商品の初期値では、「COREGA_APP」、「PUBLIC」、「MUSIC」、「PICTURE」、「VIDEO」の5つのフォルダが、ボリュームの直下に作成されます。これ以外のフォルダを作成するには、次をご覧ください。


 P.34 「1.5.2 フォルダ設定」

2.1.1 作業の前に


ネットワークドライブを割り当てる前に、まずお使いのパソコンの IP アドレスと、本商品の IP アドレスを確認してください。



- お使いのパソコンの IP アドレスがわからない場合は、次をご覧ください。

 P.105 「3.2 最新のファームウェアにアップデートする」

- 本商品の IP アドレスを忘れてしまった場合は、次をご覧ください。

 「取扱説明書」 「4.2.3 本商品にログインできない」

2.1.2 Windows Vista

Windows Vista でネットワークドライブを割り当てる方法を説明します。



本商品の IP アドレスが「192.168.1.210」に設定されている場合を例に説明します。

2

- 1 [スタート] をクリックしたあと、②に「¥¥192.168.1.210」と入力し、Enter キーを押します。

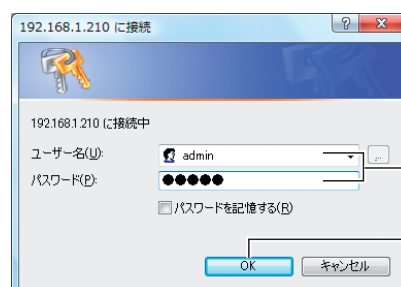


②入力します

①クリックします

※画面は例です。IP アドレスなどはお使いの環境によって異なります。

- 2 ユーザー名およびパスワードに「admin」と入力し、[OK] をクリックします。



①入力します

②クリックします

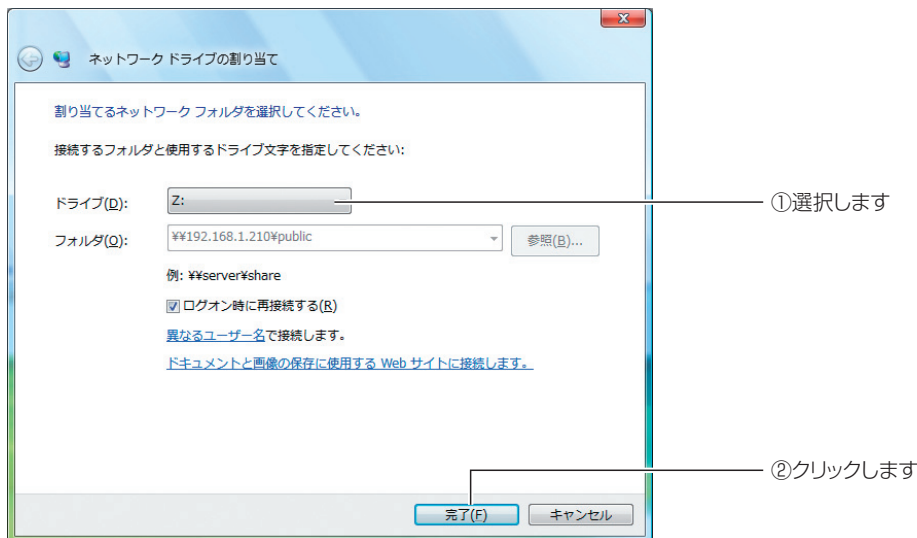
※パスワードを変更している場合は、変更後のパスワードを入力します。初期値は「admin」です。

3 「public」を右クリックし、「ネットワークドライブの割り当て」をクリックします。




※ 「public」フォルダをネットワークドライブに割り当ててる例です。

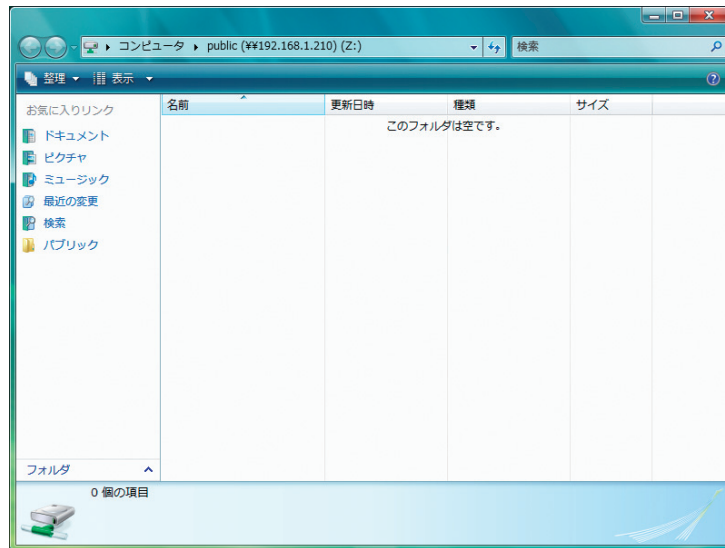
4 ドライブ文字を選択し、[完了]をクリックします。



※ Z ドライブに割り当ててる例です。

 「ログオン時に再接続する」のチェックを外すと、ログオフしたあとで再接続できなくなります。

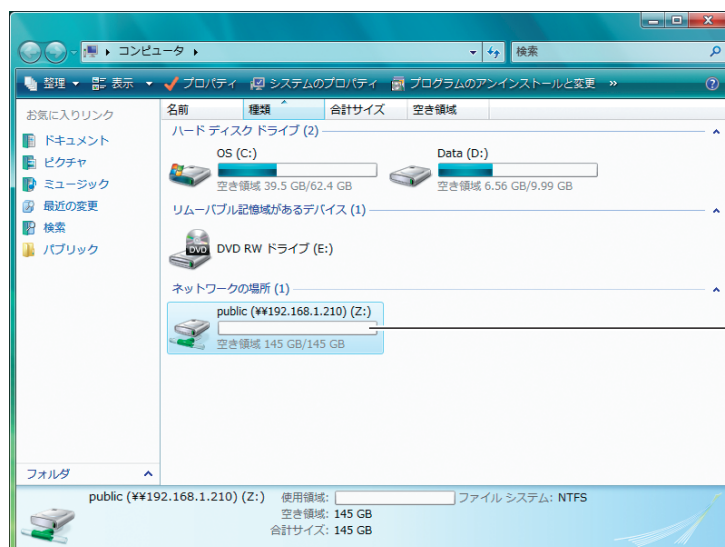
5 「Public」フォルダが表示されます。



以上で、ネットワークドライブの割り当ては終了です。

■割り当てたドライブを開くには

- 1 [スタート] – 「コンピュータ」の順にクリックします。
- 2 割り当てたドライブをダブルクリックします。



ダブルクリックします

2.1.3 Windows XP

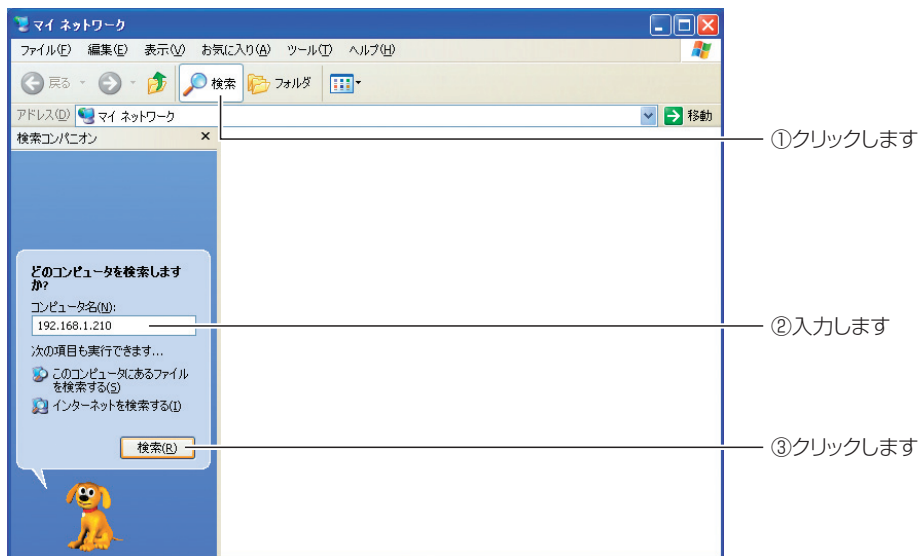
Windows XP でネットワークドライブを割り当てる方法を説明します。



本商品の IP アドレスが「192.168.1.210」に設定されている場合を例に説明します。

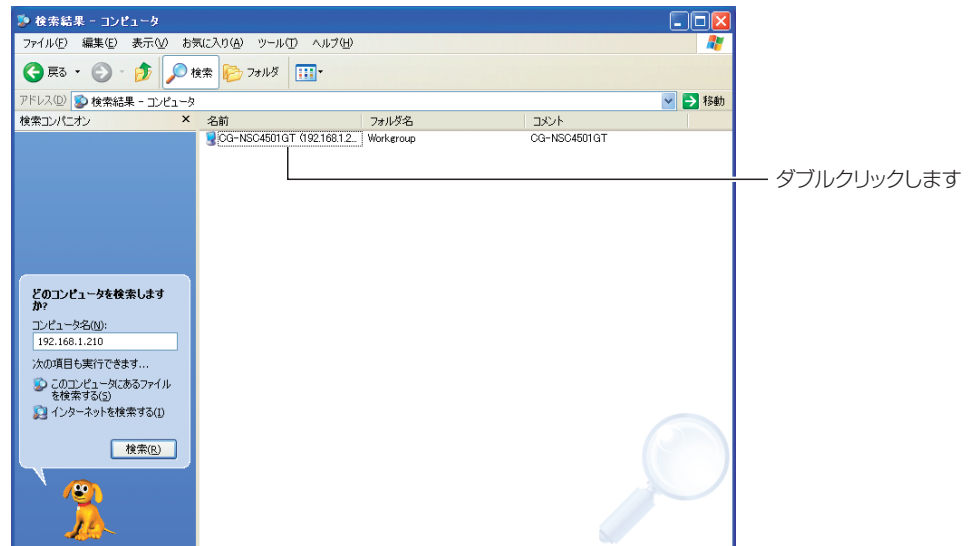
1 本商品を検索します。

マイネットワークを開き、上部ツールバーの「検索」をクリックしたあと、左の「コンピュータ名」に「192.168.1.210」と入力して [検索] をクリックします。



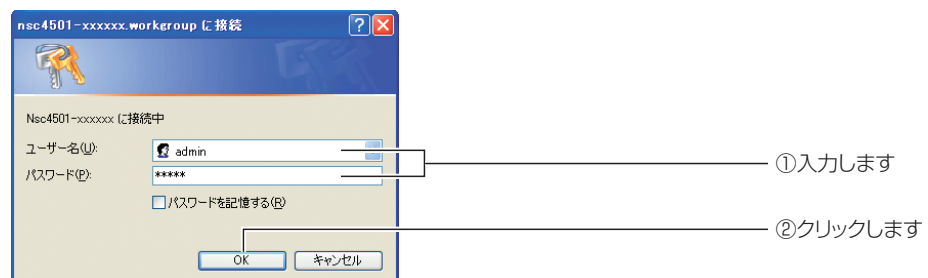
※画面は例です。IP アドレスなどはお使いの環境によって異なります。

2 検索された本商品をダブルクリックします。



2

3 ユーザー名およびパスワードに「admin」と入力し、[OK] をクリックします。



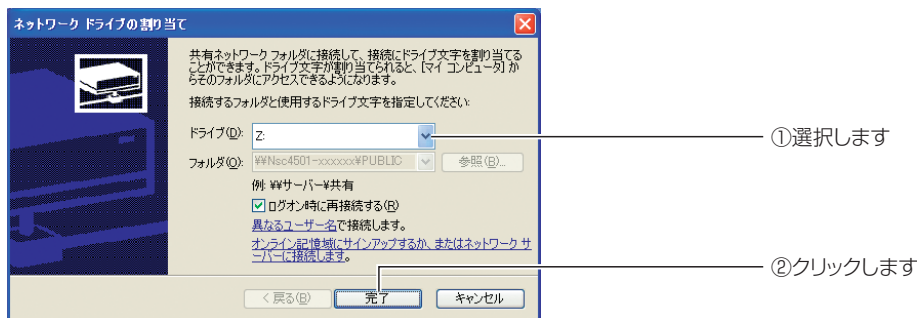
※パスワードを変更している場合は、変更後のパスワードを入力します。初期値は「admin」です。

4 「public」を右クリックし、「ネットワークドライブの割り当て」をクリックします。

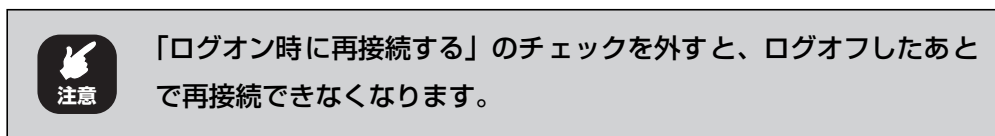


※「public」フォルダをネットワークドライブに割り当てる例です。

5 ドライブ文字を選択し、[完了]をクリックします。



※ Z ドライブに割り当てる例です。



以上で、ネットワークドライブの割り当ては終了です。

■割り当てたドライブを開くには

1 [スタート] – 「マイコンピュータ」の順にクリックします。

2 割り当てたドライブをダブルクリックします。



2.1.4 Windows 2000

Windows 2000 でネットワークドライブを割り当てる方法を説明します。

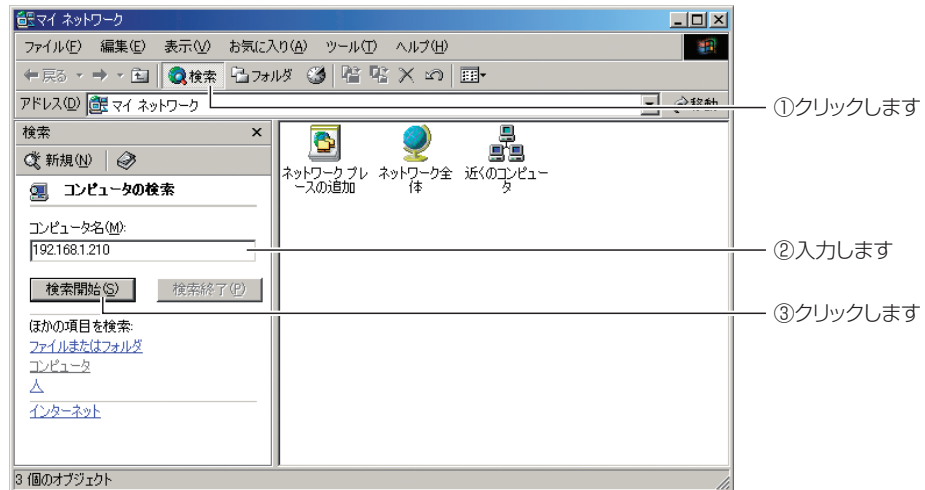


本商品の IP アドレスが「192.168.1.210」に設定されている場合を例に説明します。

2

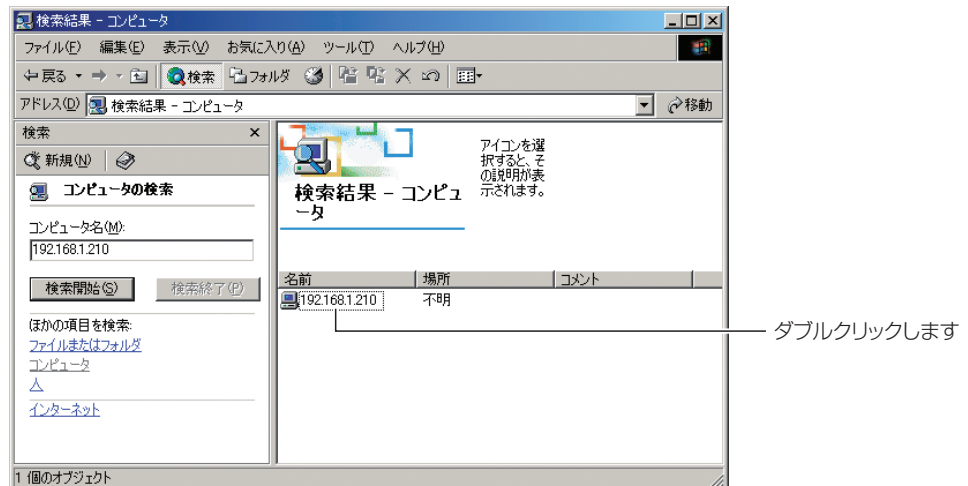
1 本商品を検索します。

マイネットワークを開き、上部ツールバーの「検索」をクリックしたあと、左の「コンピュータ名」に「192.168.1.210」と入力して、[検索開始] をクリックします。

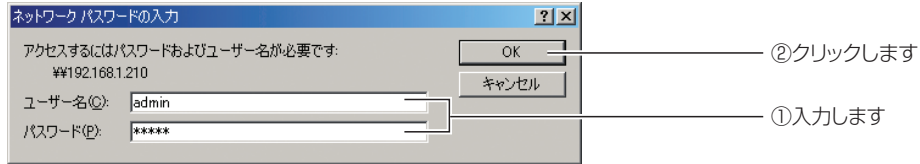


※画面は例です。IP アドレスなどはお使いの環境によって異なります。

2 検索された本商品をダブルクリックします。

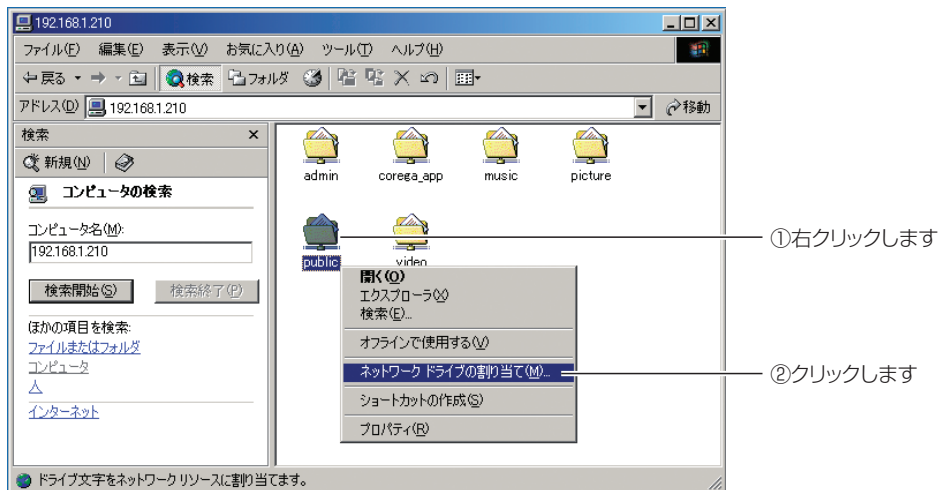


3 ユーザー名およびパスワードに「admin」と入力し、[OK] をクリックします。



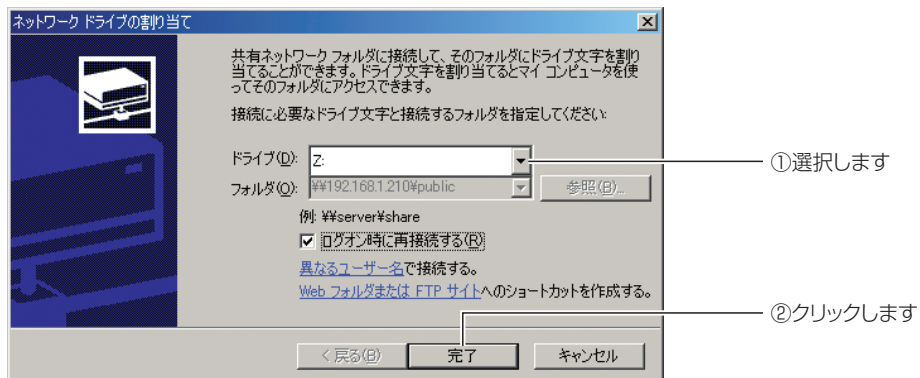
※パスワードを変更している場合は、変更後のパスワードを入力します。初期値は「admin」です。

4 「public」を右クリックし、「ネットワークドライブの割り当て」をクリックします。




※「public」フォルダをネットワークドライブに割り当てる例です。

5 ドライブ文字を選択し、[完了] をクリックします。

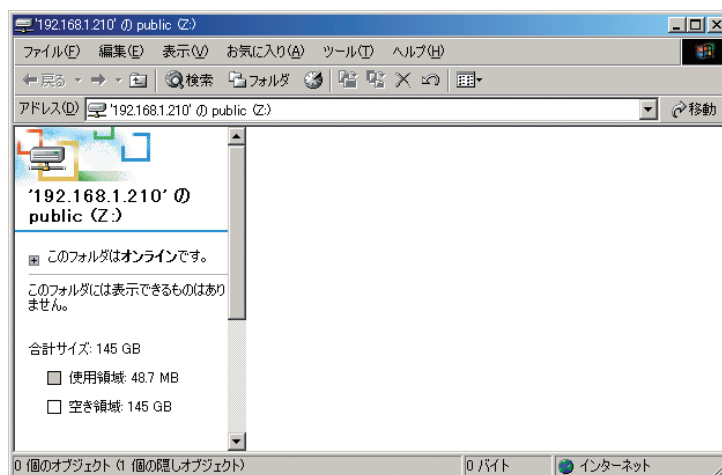


※ Z ドライブに割り当てる例です。



注意 「ログオン時に再接続する」のチェックを外すと、ログオフしたあとで再接続できなくなります。

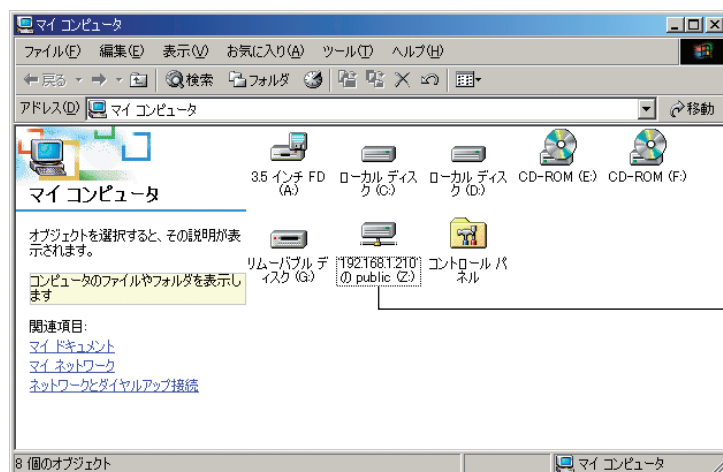
6 「Public」フォルダが表示されます。



以上で、ネットワークドライブの割り当ては終了です。

■割り当てたドライブを開くには

- 1 デスクトップの「マイコンピュータ」をダブルクリックします。
- 2 割り当てたドライブをダブルクリックします。



ダブルクリックします

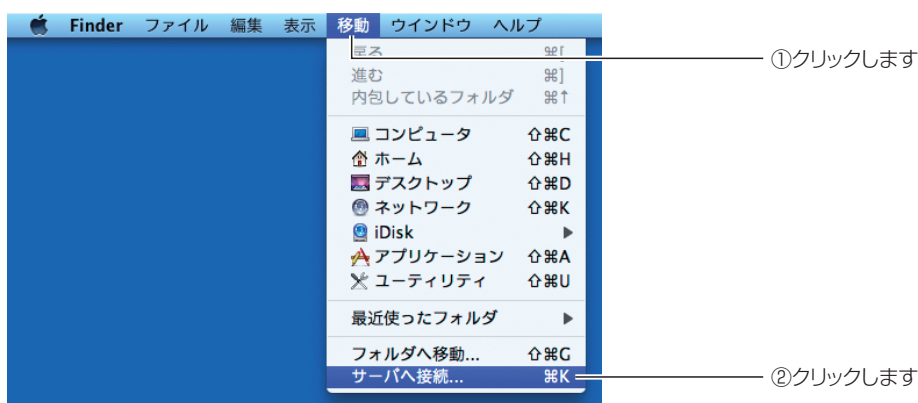
2.1.5 Macintosh

Macintosh（Mac OS X 10.4/10.5）でネットワークドライブを割り当てる方法を説明します。

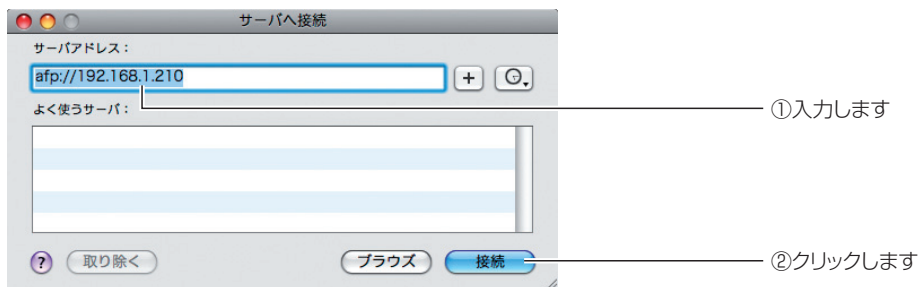


本商品のIPアドレスが「192.168.1.210」に設定されている場合を例に説明します。

1 「移動」－「サーバへ接続」の順にクリックします。

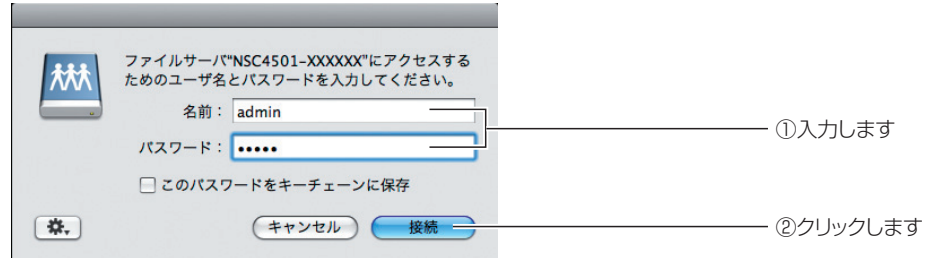


2 サーバアドレス覧に「afp://192.168.1.210」と入力し、[接続]をクリックします。



※画面は例です。IPアドレスなどはお使いの環境によって異なります。

3 名前（ユーザ名）とパスワードに「admin」と入力し、[接続] をクリックします。



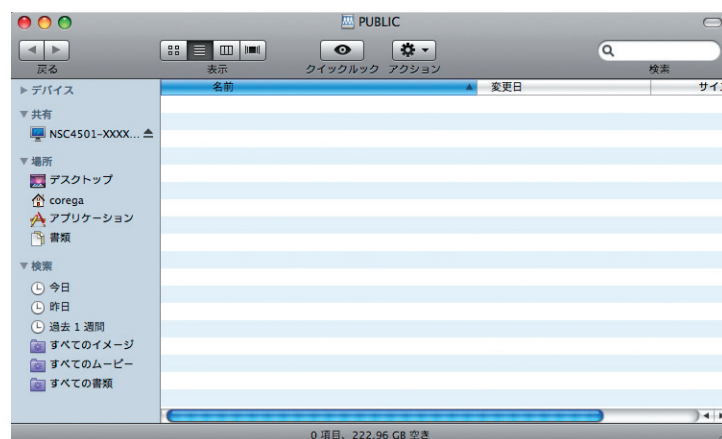
※パスワードを変更している場合は、変更後のパスワードを入力します。初期値は「admin」です。

4 「public」を選択し、[OK] をクリックします。



※「public」フォルダをネットワークドライブに割り当てる例です。

5 割り当てをしたドライブが登録されていることを確認します。



以上で、ネットワークドライブの割り当ては終了です。

2.2 ごみ箱機能について

2.2.1 はじめに

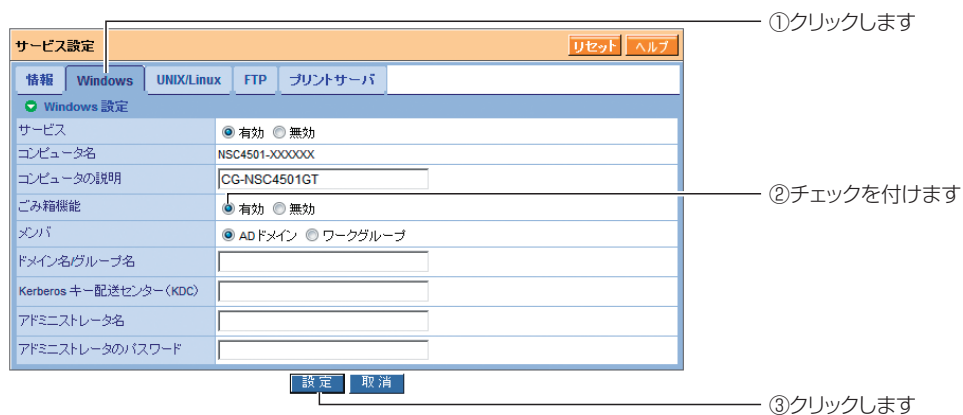
本商品のごみ箱機能に対応しています。ごみ箱機能を有効にした場合、ファイルを削除すると、ファイルは各フォルダ内の「.RECYCLER」フォルダ（ごみ箱フォルダ）にファイルが移動します。ファイルは完全に削除されていないため、ごみ箱フォルダから元に戻すことができます。

ごみ箱フォルダは隠し属性のため、フォルダ内を確認したり、ファイルを元に戻したり、ファイルを完全に削除するには、お使いのパソコンによって設定が必要になります。

2.2.2 ごみ箱機能を有効にする

ごみ箱機能を有効にする手順を説明します。

- 1 設定画面を表示します。
- 2 「フォルダ／プリンタ設定」－「サービス設定」の順にクリックします。
- 3 Windows タブをクリックし、「ごみ箱機能」の「有効」にチェックを付け、[設定] をクリックします。



以上で、ごみ箱機能が有効になりました。

2.2.3 隠しフォルダを表示する

OS ごとに隠しフォルダを表示する方法を説明します。

- Windows Vista

 P.77 「 Windows Vista」

- Windows XP

 P.77 「 Windows XP」

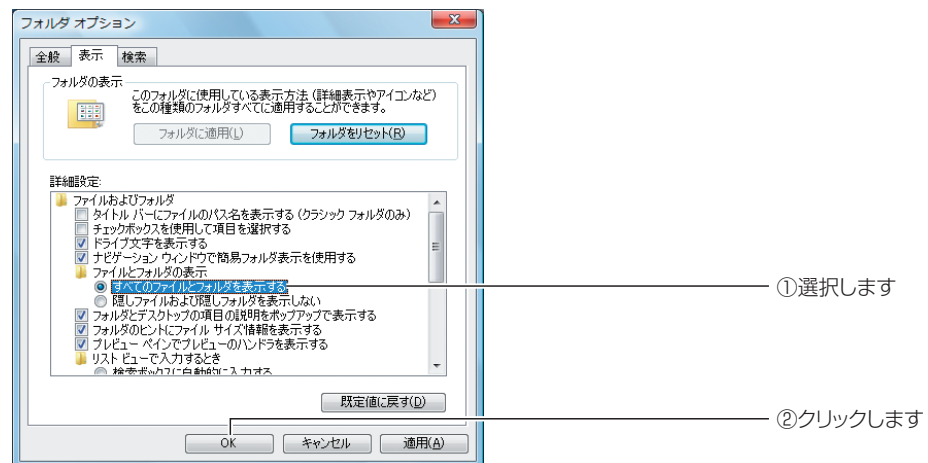
- Windows 2000

 P.78 「 Windows 2000」

■ Windows Vista

Windows Vista で隠しフォルダを表示する方法を説明します。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「クラシック表示」をクリックします。
- 2 「フォルダオプション」を開き、表示タブをクリックします。
- 3 「詳細設定」の「ファイルとフォルダの表示」を「すべてのファイルとフォルダを表示する」を選択して、[OK] をクリックします。

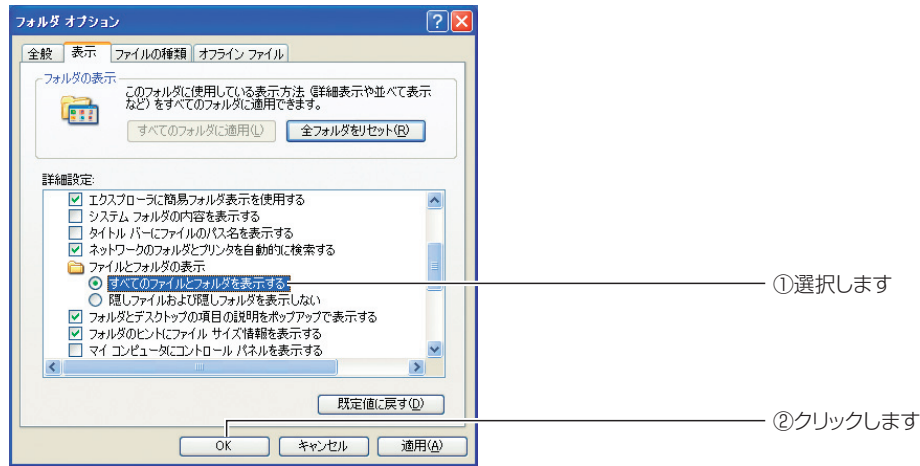


■ Windows XP

Windows XP で隠しフォルダを表示する方法を説明します。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「クラシック表示に切り替える」をクリックします。
- 2 「フォルダオプション」を開き、表示タブをクリックします。

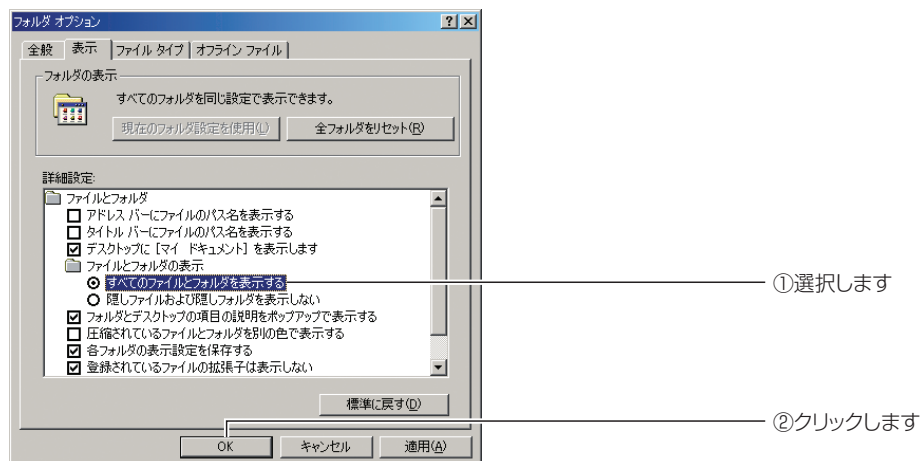
- 3** 「詳細設定」の「ファイルとフォルダの表示」を「すべてのファイルとフォルダを表示する」を選択して、[OK] をクリックします。



■ Windows 2000

Windows 2000 で隠しフォルダを表示する方法を説明します。

- 1** 「コントロールパネル」の「フォルダオプション」を開き、表示タブをクリックします。
- 2** 「詳細設定」の「ファイルとフォルダの表示」を「すべてのファイルとフォルダを表示する」を選択して、[OK] をクリックします。



2.2.4 ファイルを元に戻す

削除したファイルは、各フォルダ内の「.RECYCLER」フォルダにあるユーザ名のフォルダに移動します。ファイルを元に戻す場合は、エクスプローラで「.RECYCLER」フォルダ内のユーザ名のフォルダを開き、削除したファイルを元の場所に戻してください。

2.2.5 ファイルを完全に削除する

削除したファイルは、各フォルダ内の「.RECYCLER」フォルダにあるユーザ名のフォルダに移動します。ファイルを完全に削除する場合は、エクスプローラで「.RECYCLER」フォルダを開き、ユーザ名のフォルダごと削除するか、ユーザ名のフォルダ内のファイルを削除してください。

2.3 プリントサーバの設定

プリントサーバの設定方法を説明します。



- ・プリントサーバ機能は Macintosh では使用できません。
- ・プリンタは 1 台のみ接続できます。

2.3.1 はじめに

次の手順に従って、パソコンでプリンタが使用できることを確認したあと、本商品にプリンタを接続します。

- 1** プリントサーバの設定をする前に、まずパソコンとプリンタとを直接接続して、プリンタドライバをインストールします。



プリンタドライバのインストール方法は、プリンタの取扱説明書をご覧ください。

- 2** プリンタで印刷できることを確認し、プリンタの電源をオフにします。
- 3** プリンタを接続している USB ケーブルを、パソコンから抜きます。
- 4** 本商品の背面にある USB ポートに、USB ケーブルを接続します。
- 5** プリンタの電源をオンにします。
- 6** 設定画面を表示します。

- 7 「フォルダ / プリンタ設定」 - 「サービス設定」の順にクリックします。
- 8 「プリンタサーバ」のステータスが「ON」になっていることを確認します。
ステータスが「OFF」になっているときは、[有効] をクリックして、「ON」にします。



確認します

このあとは、OS ごとに手順が異なります。

- Windows Vista

P.81 「2.3.2 Windows Vista」

- Windows XP

P.85 「2.3.3 Windows XP」

- Windows 2000

P.88 「2.3.4 Windows 2000」

2.3.2 Windows Vista

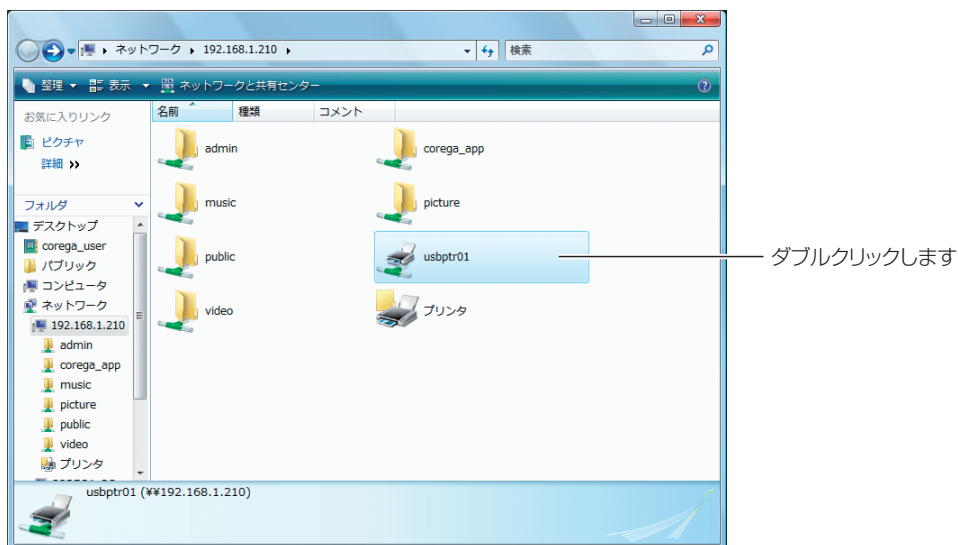
Windows Vista でプリントサーバを設定する方法を説明します。



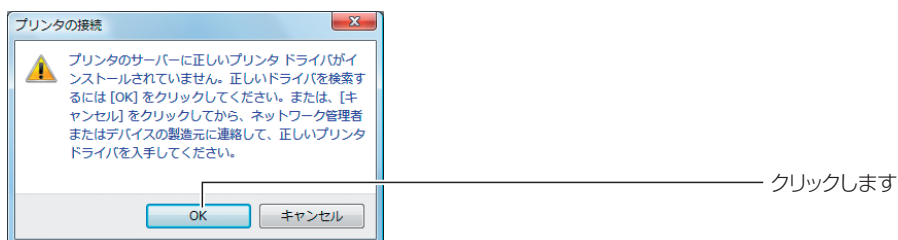
本商品の IP アドレスが「192.168.1.210」に設定されている場合を例に説明します。

- 1 P.65 「2.1.2 Windows Vista」の手順 1 ~ 3 に従って、本商品に接続します。

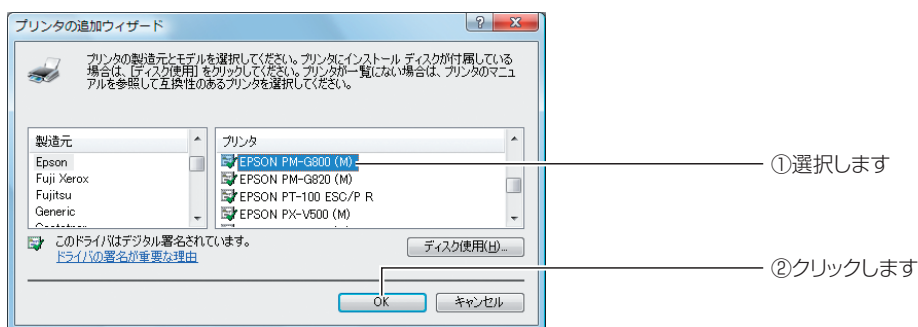
2 「usbptr01」をダブルクリックします。



3 [OK] をクリックします。

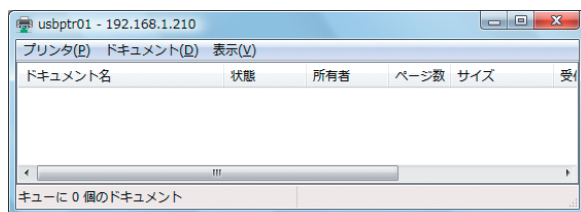


4 本商品に接続しているプリンタの製造元、プリンタ名を選択して [OK] をクリックします。

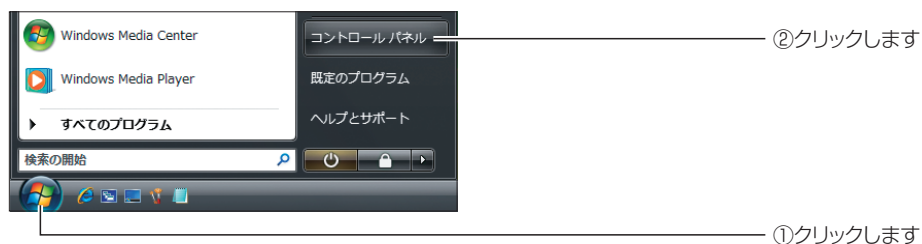


※画面は例です。お使いのプリンタを選択してください。

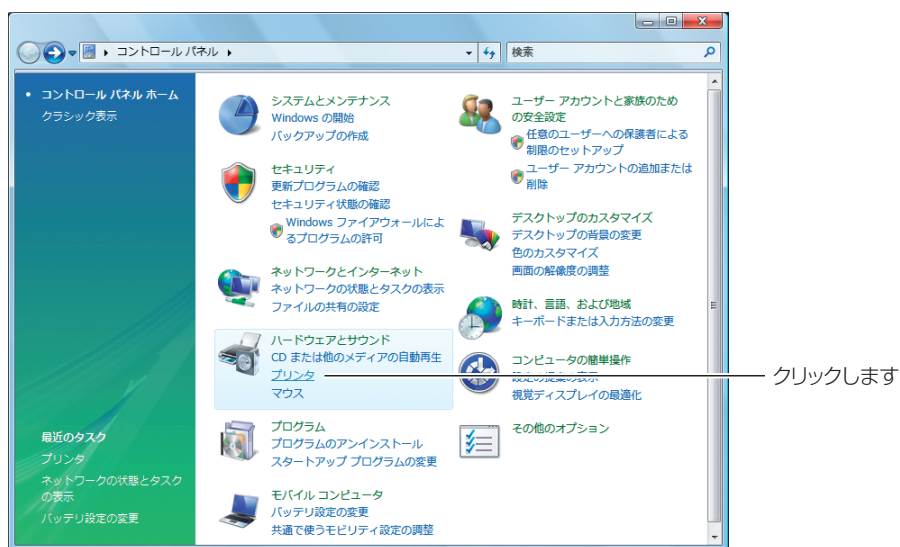
5 プリンタフォルダが表示されます。



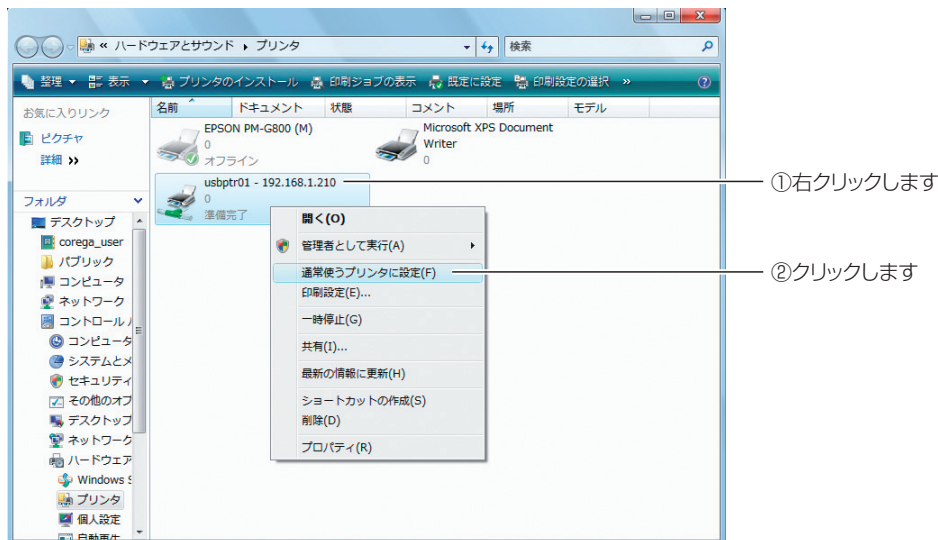
6 [スタート] – 「コントロールパネル」の順にクリックします。



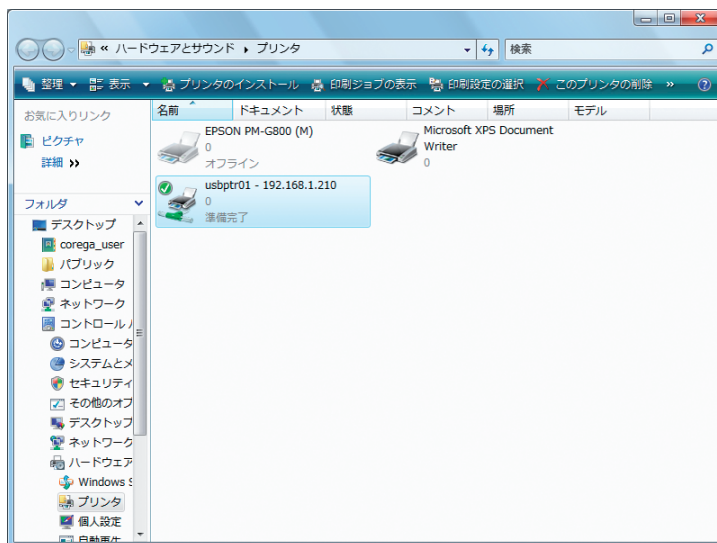
7 「プリンタ」をクリックします。



8 「usbptr01」を右クリックし、「通常使うプリンタに設定」をクリックします。



9 「usbptr01」にチェックが付いたらプリンタ設定は終了です。



2.3.3 Windows XP

Windows XP でプリントサーバを設定する方法を説明します。



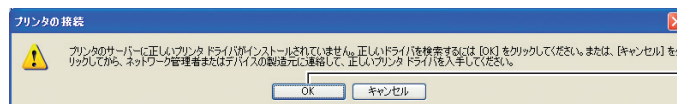
本商品の IP アドレスが「192.168.1.210」に設定されている場合を例に説明します。

2

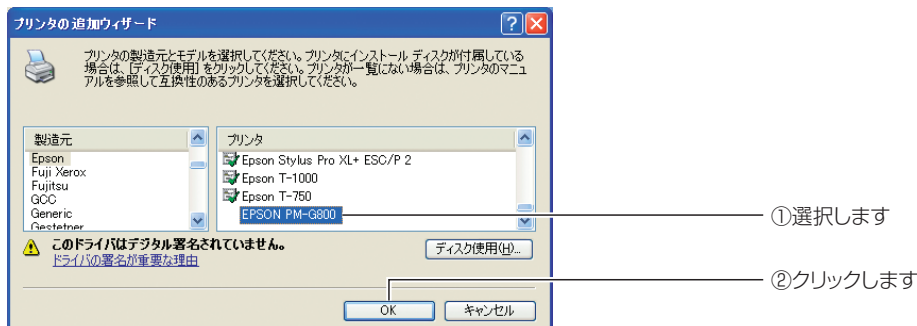
- 1 P.68 「2.1.3 Windows XP」の手順 1 ～ 3 に従って、本商品に接続します。
- 2 「usbptr01」をダブルクリックします。



- 3 [OK] をクリックします。

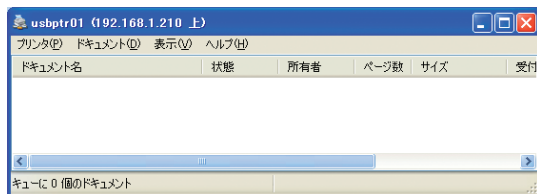


4 本商品に接続しているプリンタの製造元、プリンタ名を選択し、[OK]をクリックします。

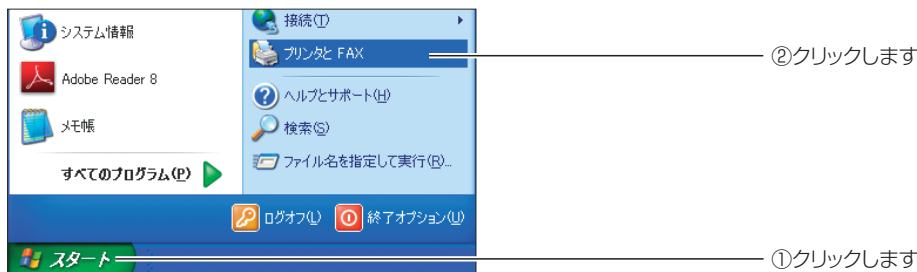


※画面は例です。お使いのプリンタを選択してください。

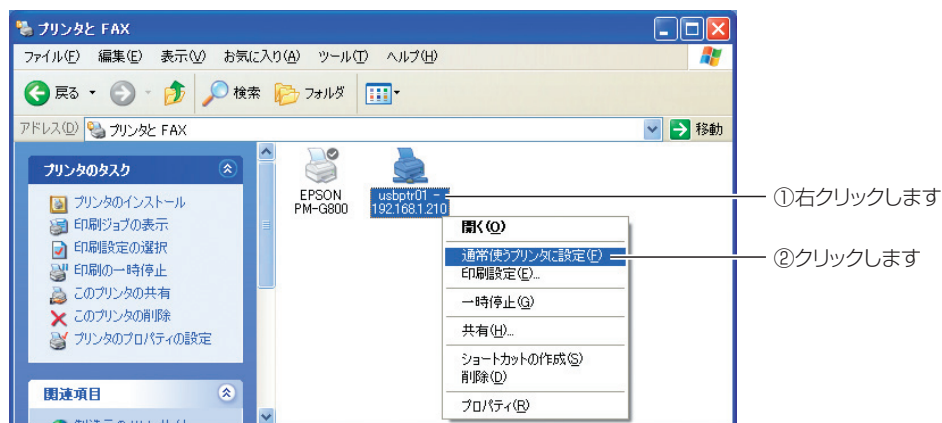
5 プリンタフォルダが表示されます。



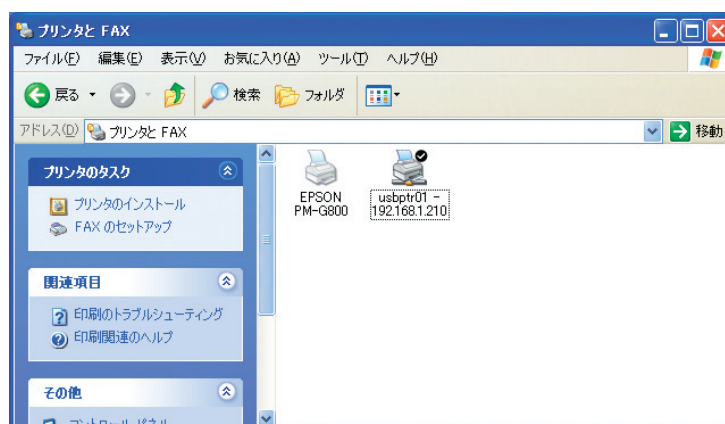
6 [スタート] – 「プリンタと FAX」の順にクリックします。



7 「usbptr01」を右クリックし、「通常使うプリンタに設定」をクリックします。




8 「usbptr01」にチェックが付いたらプリンタ設定は終了です。



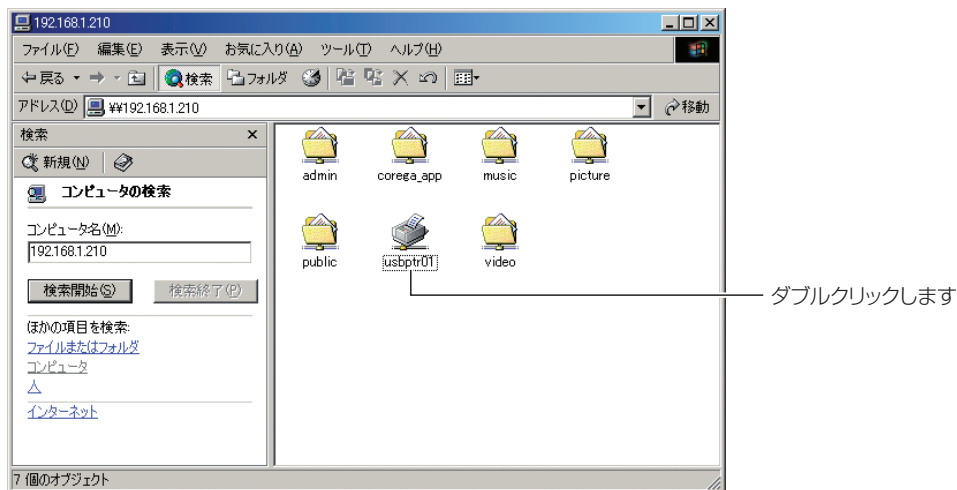
※画面は例です。お使いのプリンタを選択してください。

2.3.4 Windows 2000

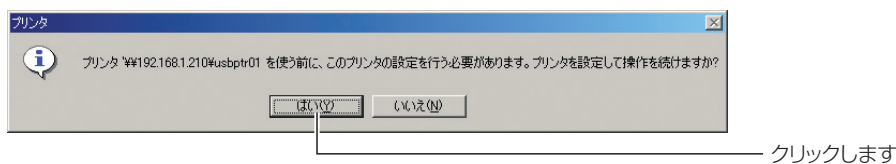
Windows 2000 でプリントサーバを設定する方法を説明します。

 本商品の IP アドレスが「192.168.1.210」に設定されている場合を例に説明します。

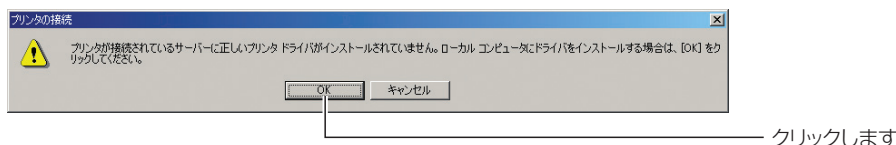
- 1 P.71 「2.1.4 Windows 2000」の手順 1 ～ 3 に従って、本商品に接続します。
- 2 「usbptr01」をダブルクリックします。



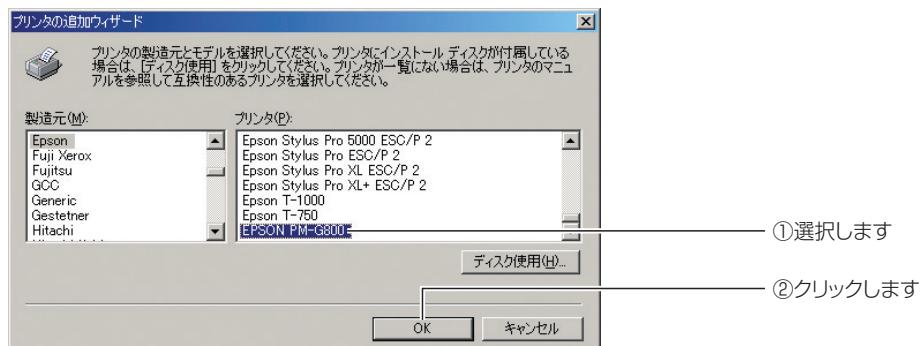
- 3 [はい] をクリックします。



- 4 [OK] をクリックします。

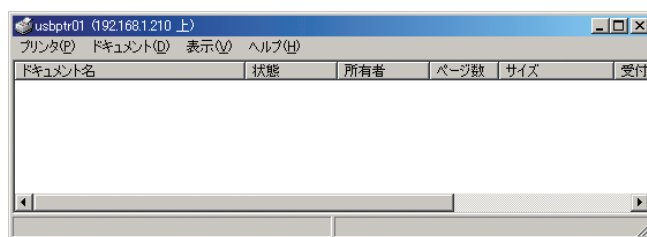


5 本商品に接続しているプリンタの製造元、プリンタ名を選択し、[OK]をクリックします。

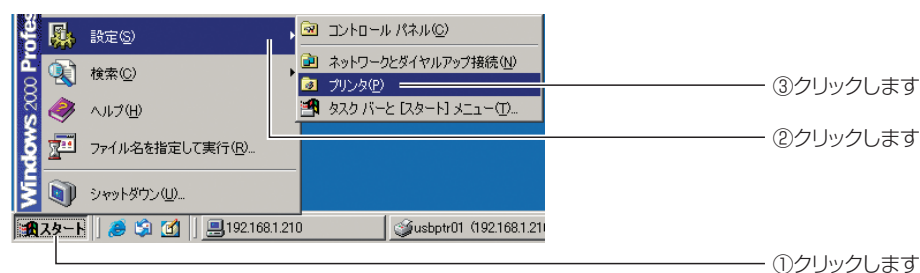


※画面は例です。お使いのプリンタを選択してください。

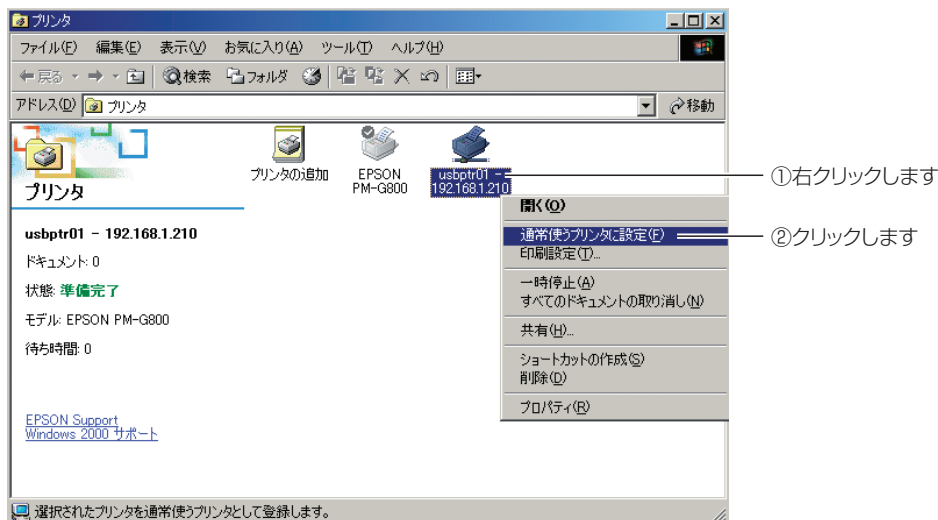
6 プリンタフォルダが表示されます。



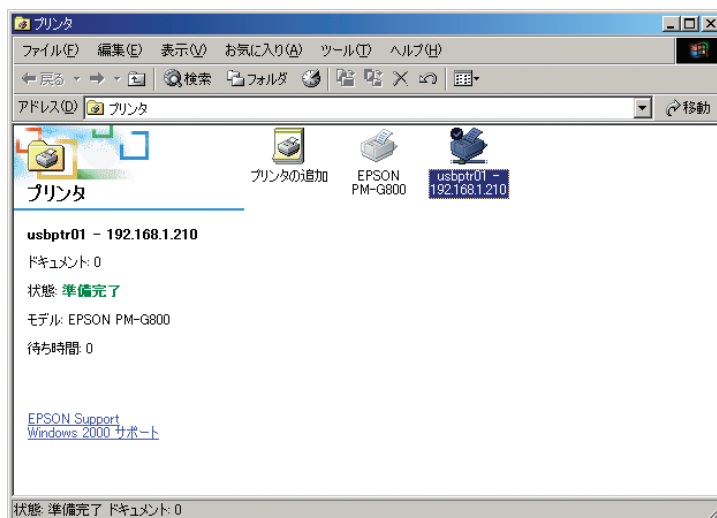
7 [スタート] - 「設定」 - 「プリンタ」の順にクリックします。



8 「usbptr01」を右クリックし、「通常使うプリンタに設定」をクリックします。



9 「usbptr01」にチェックが付いたらプリンタ設定は終了です。



2.4 アプリケーションを追加する

iTunes サーバ機能、DLNA サーバ機能を使うには、あらかじめアプリケーションを追加しておく必要があります。

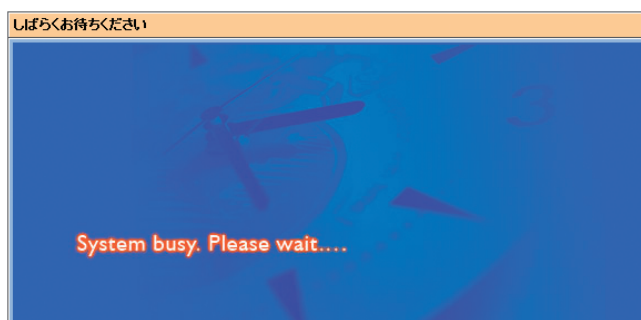
iTunes サーバ機能を追加するためのアプリケーションと、DLNA サーバ機能を追加するためのアプリケーションとは、別ファイルで提供しています。必要なアプリケーションをダウンロードしてください。

- 1 コレガホームページ (<http://corega.jp/>) からアプリケーションをダウンロードします。
- 2 ダウンロードして解凍したファイルを、本商品の「public」フォルダにコピーします。
- 3 設定画面を表示します。
- 4 「システム管理」－「ファームウェア更新」の順にクリックします。
- 5 「アプリケーションの追加」をクリックし、手順2で保存したファイル名を入力して、「設定」をクリックします。



- ・ ファイルは拡張子も含めてフルネームで入力してください。ファイル名を間違えたり、拡張子を入力しなかったりすると、アプリケーションを追加できません。
- ・ アプリケーションの追加は1つずつしか実行できません。

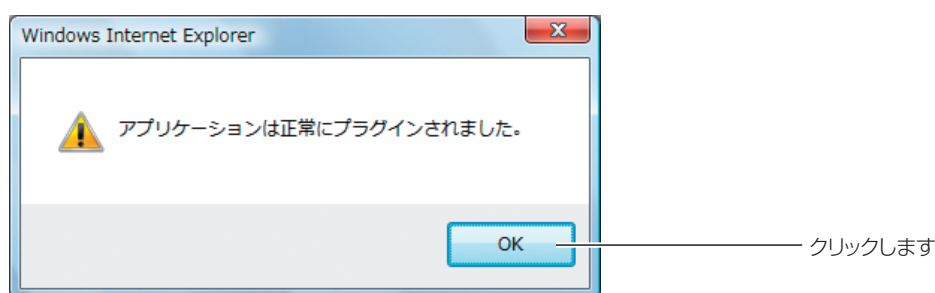
6 手順7の画面が表示されるまでしばらくお待ちください。



「ファイルが見つかりません」と表示されたら、次の内容を確認して、再度実行してください。



- ・ 本商品専用のアプリケーションをダウンロードしている
- ・ ダウンロード後、ファイルを解凍している
- ・ 解凍したファイルを、本商品の「public」フォルダに保存している
- ・ 手順5の画面で、「public」フォルダを指定している
- ・ 複数のボリュームを作成している場合、正しいボリュームを指定している
- ・ 手順5の画面で、正しいファイル名を入力している（フルネームで、拡張子も入力している）

7 [OK] をクリックします。



以上で、アプリケーションの追加は完了です。引き続き、2つ目のアプリケーションを追加するには、手順5以降に戻ります。

このあとは、次の項目をご覧ください。

- ・ iTunes サーバ機能を使うには  **P.4** 「2.1 iTunes の音楽ファイルを共有する」
- ・ DLNA サーバ機能を使うには  **P.8** 「3.1 DLNA で共有する」

2.5 iTunes の音楽ファイルを共有する

iTunes サーバ機能を使って、iTunes の音楽ファイルをほかのパソコンで再生する手順を説明します。



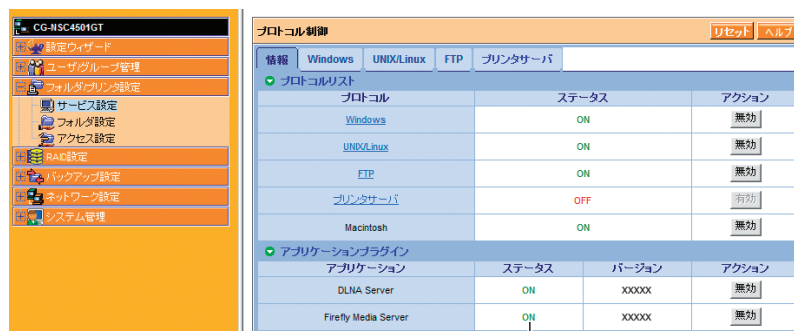
- ・ iTunes サーバ機能を使うには、あらかじめアプリケーションを追加しておく必要があります。
- ☞ P.91 「2.4 アプリケーションを追加する」
- ・ 音楽ファイルのコピー操作、および本商品で使用しているときに、万が一音楽ファイルが消失してしまっても、データの保証は一切いたしません。大切なデータは必ずバックアップをお取りください。
- ・ iTunes Store から購入した音楽ファイルは、一度に最大 5 台のパソコンで認証して再生できます。
- ・ iTunes の操作については、弊社サポート対象外となります。

2

2.5.1 iTunes サーバ機能を有効にする

iTunes サーバ機能を有効にする手順を説明します。

- 1 設定画面を表示します。
- 2 「フォルダ／プリンタ設定」－「サービス設定」をクリックします。
- 3 「Firefly Media Server」のステータスが「ON」になっていることを確認します。
「OFF」になっている場合は、「有効」をクリックして、「ON」にします。



確認します

※画面は例です。



「Firefly Media Server」が表示されていないときは、アプリケーションの追加に失敗しています。次の項目をご覧ください、アプリケーションを追加してください。

☞ P.91 「2.4 アプリケーションを追加する」

4 画面右上の「ログアウト」をクリックします。

以上で、本商品の設定は完了です。

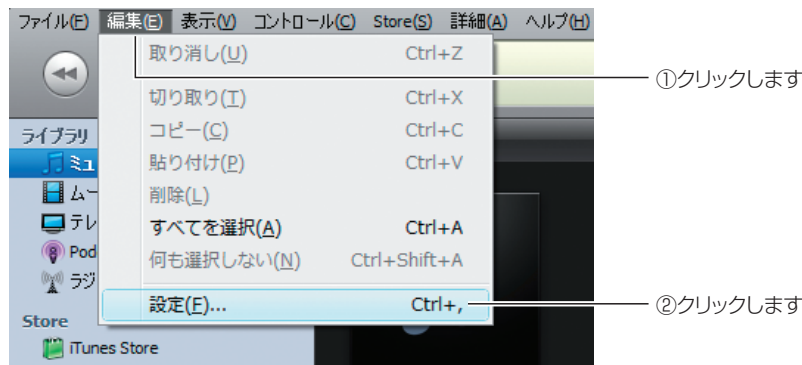
2.5.2 音楽ファイルをコピーする

ここでは、iTunes で保存された音楽ファイルを、本商品にコピーする手順を説明します。
まず、iTunes を起動して保存先を調べ、そのデータを本商品の共有フォルダにコピーします。
Macintosh をお使いの場合は、P.95 「■ Macintosh をお使いの場合」をご覧ください。

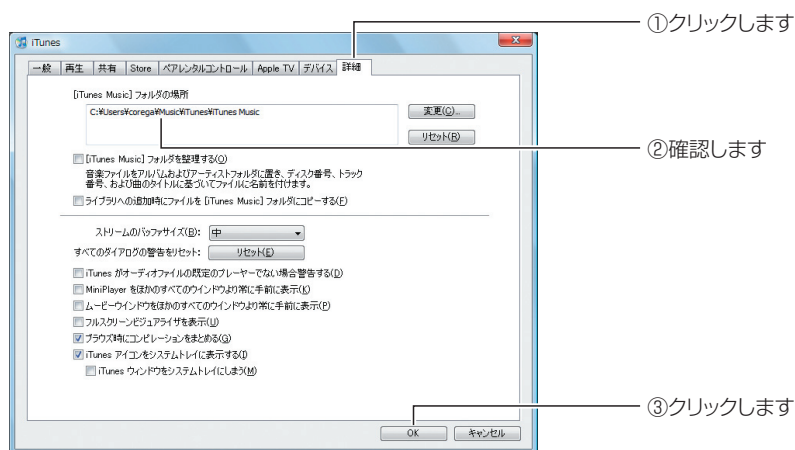
■ Windows をお使いの場合

ここでは、Windows Vista で、iTunes 8.1 を使用している場合を例に説明します。iTunes について詳しくは、iTunes のヘルプをご覧ください。

1 iTunes を起動し、「編集」－「設定」をクリックします。



2 「詳細」をクリックし、「iTunes Music」フォルダの場所を確認して、「OK」をクリックします。



3 iTunes を終了し、「iTunes Music」フォルダごとコピーします。

コピー元フォルダ	手順2で確認した「iTunes Music」フォルダ
コピー先フォルダ	本商品の「music」フォルダの直下に、「iTunes Music」フォルダをコピーする

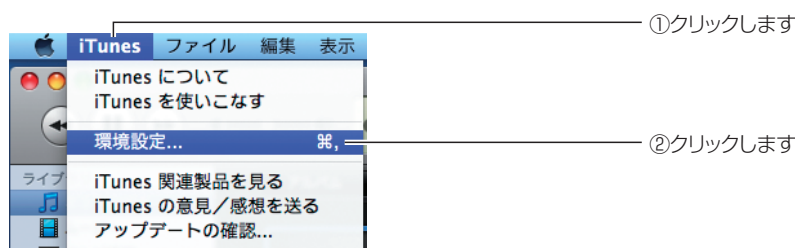
以上で、音楽ファイルのコピーは完了です。

このあとは、P.96 「2.5.3 音楽ファイルを再生する」に進みます。

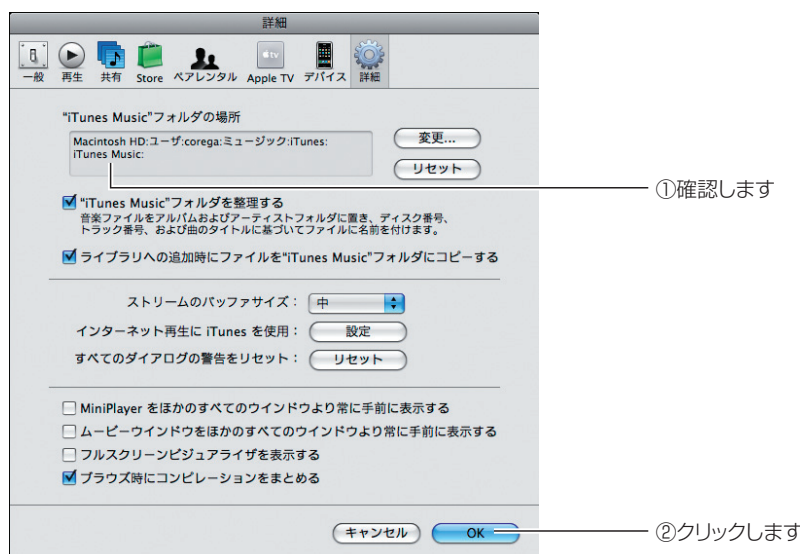
■ Macintosh をお使いの場合

ここでは、Macintosh (Mac OS X 10.5.6) で、iTunes 8.1 を使用している場合を例に説明します。iTunes について詳しくは、iTunes のヘルプをご覧ください。

1 iTunes を起動し、「iTunes」－「環境設定」の順にクリックします。



2 「詳細」をクリックし、「iTunes Music」フォルダの場所を確認して、[OK] をクリックします。



3 iTunes を終了し、「iTunes Music」フォルダごとコピーします。

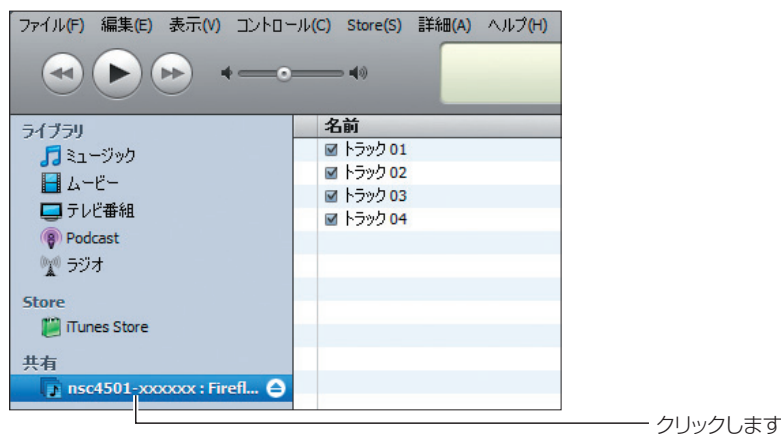
コピー元フォルダ	手順2で確認した「iTunes Music」フォルダ
コピー先フォルダ	本商品の「music」フォルダの直下に、「iTunes Music」フォルダをコピーする

以上で、音楽ファイルのコピーは完了です。

2.5.3 音楽ファイルを再生する

ここでは、本商品に保存された音楽ファイルを再生する手順を説明します。

- 1 iTunes を起動します。
- 2 「nsc4501-xxxxxx : Firefly Media Server」をクリックして、音楽ファイルをダブルクリックします。



以上で、本商品に保存された音楽ファイルが再生できました。
iTunes の詳しい使い方は、iTunes のヘルプをご覧ください。

2.6 DLNA で共有する

DLNA とは、Digital Living Network Alliance の略で、家庭内 LAN を使ってパソコンや AV 機器、情報家電などを連携して利用するための技術仕様です。

DLNA サーバ機能を使うことで、本商品に保存した動画、画像、音楽ファイルを、DLNA 対応のデジタル家電で再生できるようになります。



・ DLNA サーバ機能を使うには、あらかじめアプリケーションを追加しておく必要があります。

👉 P.91 「2.4 アプリケーションを追加する」

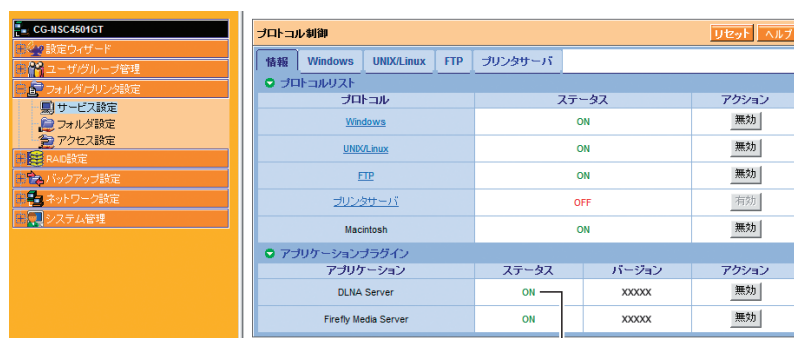
- ・ DLNA で共有するファイルのコピー操作、および本商品で使用しているときに、万が一ファイルが消失してしまっても、データの保証は一切いたしません。大切なデータは必ずバックアップをお取りください。
- ・ DLNA 対応機器の操作については、弊社サポート対象外となります。

2

2.6.1 DLNA サーバ機能を設定する

DLNA サーバ機能を有効にする手順を説明します。

- 1 設定画面を表示します。
- 2 「フォルダ／プリンタ設定」－「サービス設定」をクリックします。
- 3 「DLNA Server」のステータスが「ON」になっていることを確認します。
「OFF」になっている場合は、[有効]をクリックして、「ON」にします。



確認します

※画面は例です。



「DLNA Server」が表示されていないときは、アプリケーションの追加に失敗しています。次の項目をご覧になり、アプリケーションを追加してください。

👉 P.91 「2.4 アプリケーションを追加する」

4 画面右上の「ログアウト」をクリックします。

以上で、本商品の設定は完了です。

2.6.2 動画、画像、音楽ファイルをコピーする

本商品を「設定ユーティリティ」または「設定ウィザード」で設定すると、DLNA サーバ用のフォルダが作成されます。そのため、次のフォルダにデータをコピーすることをお勧めします。

ファイルの種類	本商品の保存先フォルダ
動画ファイル	「VIDEO」フォルダ
画像ファイル	「PICTURE」フォルダ
音楽ファイル	「MUSIC」フォルダ

2.6.3 DLNA 機器で再生する

ここでは、本商品に保存された動画、画像、音楽ファイルを、Windows Media Player 11 で再生する手順を例に説明します。



DLNA 対応機器で再生できるファイルの種類、操作方法、本商品への接続方法は、お使いの機器またはソフトウェアによって異なります。詳しくは、お使いの機器またはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

1 DLNA 対応機器を起動し、本商品を選択します。



選択します

※「ライブラリ」で「ビデオ」を選択した例です。

2 ファイルを再生します。

以上で、DLNA 対応機器でファイルが再生できました。

2.7 USB ストレージのデータをコピーする

USB ストレージ（USB ハードディスクや USB メモリ）のデータを、本商品にコピーする手順を説明します。

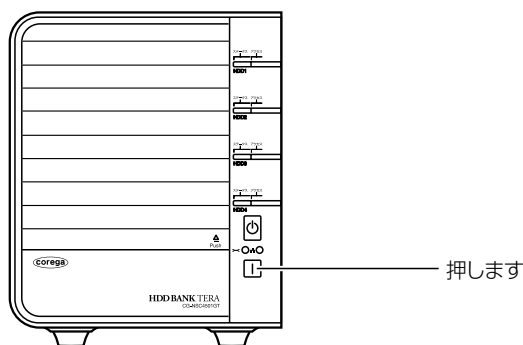


- ・ いかなる原因においても、本商品に取り付けた USB ストレージおよび内部のデータの保証はいたしません。大切なデータは必ずバックアップをお取りください。
- ・ USB ストレージは、下記手順に従って正しく取り外してください。USB ストレージおよびデータが破損するおそれがあります。
- ・ USB ストレージ接続中は、USB ストレージが「usbdisk」フォルダとしてネットワーク上に公開されます。「usbdisk」フォルダにはアクセス制限を設定できませんので、コピーが終了したらすぐに取り外すことをお勧めします。

1 USB ストレージを本体背面の USB ポートに接続します。

2 コピーボタンを押します。

ピッという音が 2 回鳴って、データのコピーが始まります。コピー中は HDD アクセス LED が点滅します。



3 コピーが完了すると、ピッという音が 3 回鳴ります。

4 HDD アクセス LED が消灯していることを確認して、USB ストレージを取り外します。

5 データを確認します。

public フォルダ下に、「USBDISK-(日時)」フォルダが作成され、USB ストレージのすべてのデータがコピーされます。



コピー先フォルダ、フォルダ名は、変更できません。

以上で、USB ストレージのデータをコピーできました。

第3章

こんなときにはこの設定（サポート編）

この章では、本商品の各サポート機能について説明します。

3.1 設定をバックアップする／元に戻す	102
3.1.1 設定をバックアップファイルに保存する	102
3.1.2 設定を元に戻す	103
3.2 最新のファームウェアにアップデートする	105
3.3 工場出荷時の状態（初期値）に戻す	107
3.3.1 初期化ボタンで初期化する	107
3.3.2 設定画面で初期化する	108

3.1 設定をバックアップする／元に戻す

本商品の設定をバックアップファイルに保存しておくことができます。また、バックアップファイルを使用して、本商品の設定をバックアップ時の状態に戻すことができます。



バックアップしたファイルは、同じバージョンのファームウェアでのみ使用できます。ファームウェアをバージョンアップする前には、設定内容をメモに控えておいてください。

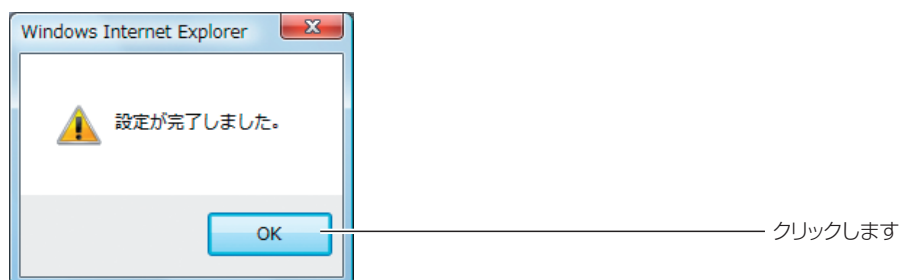
3.1.1 設定をバックアップファイルに保存する

- 1 設定画面を表示します。
- 2 「システム管理」－「システム保護」の順にクリックします。
- 3 ボリュームとフォルダを選択して、[設定] をクリックします。



※画面は例です。

- 4 [OK] をクリックします。



- 5 データを確認します。

指定したフォルダに次のファイル名のバックアップファイルが作成されます。

(コンピュータ名)_(日付)_(通番).bcf

例：nsc4501-xxxxxx_20090408_1.bcf

以上で、バックアップファイルが保存できました。

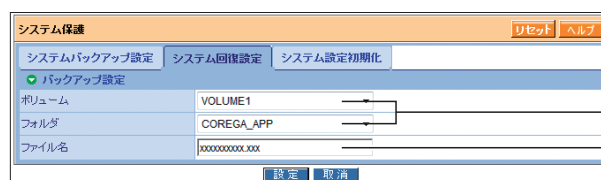
3.1.2 設定を元に戻す

バックアップファイルを使用して、本商品の設定をバックアップ時の状態に戻します。



設定を元に戻す前に、本商品にアクセスしていないことを確認してください。データが破損するおそれがあります。

- 1 設定画面を表示します。
- 2 「システム管理」－「システム保護」の順にクリックします。
- 3 「システム回復設定」をクリックし、ボリュームおよびフォルダを選択して、ファイル名を入力し、「設定」をクリックします。



① 選択します

② 入力します

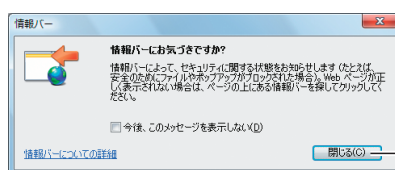
③ クリックします

※画面は例です。



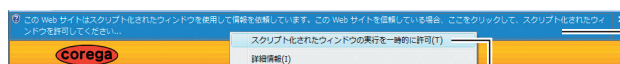
「情報バーにお気づきですか？」と表示された場合は、下記の手順に従ってください。

- ① [閉じる] をクリックします。



クリックします

- ② 情報バーをクリックし、「スクリプト化されたウィンドウの実行を一時的に許可」をクリックします。

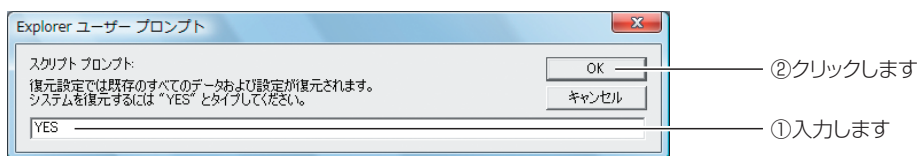


① クリックします

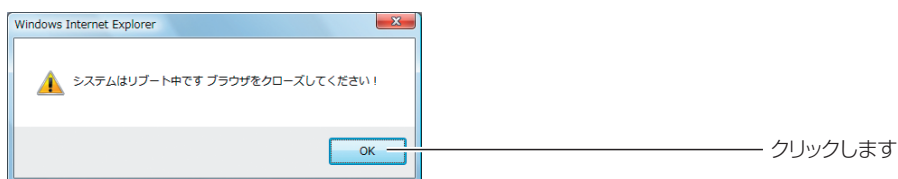
② クリックします

- ③ 再度、[設定] をクリックします。

4 「YES」と入力して、[OK] をクリックします。



5 [OK] をクリックして、ブラウザを閉じます。



6 本商品が再起動します。

以上で、設定がバックアップ時の状態に戻りました。

3.2 最新のファームウェアにアップデートする

本商品の機能強化のため予告なくファームウェアをバージョンアップすることがあります。最新のファームウェアはコレガホームページ (<http://corega.jp/>) から入手してください。

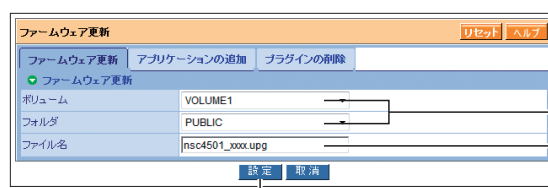


- ・ファームウェアをアップデート中は、絶対に本商品の電源を切らないでください。また、設定画面のほかの操作をしたり、アプリケーションを起動したりしないでください。ファームウェアのアップデートに失敗すると、本商品の故障の原因になります。
- ・ファームウェアをアップデートする前に、本商品にアクセスしていないことを確認してください。データが破損するおそれがあります。
- ・ファームウェアをアップデートする前に、本商品の設定内容をメモに控えておいてください。
- ・セキュリティソフトを使用している場合、ファームウェアをアップデートする前にセキュリティソフトを停止してください。ファームウェアをアップデートしたあとに、セキュリティソフトを元に戻してください。セキュリティソフトの停止方法については、お使いのセキュリティソフトの取扱説明書をご覧ください。



- ・ファームウェアをアップデートする前に、コレガホームページ (<http://corega.jp/>) から最新のファームウェアをダウンロードしてください（提供時期は未定です）。
- ・ダウンロードしたファイルは圧縮されているため、解凍する必要があります。
- ・ダウンロードして解凍したファイルを、本商品の共有フォルダに保存してください。

- 1 設定画面を表示します。
- 2 「システム管理」－「ファームウェア更新」の順にクリックします。
- 3 ボリュームおよびフォルダを選択して、ファイル名を入力し、[設定]をクリックします。



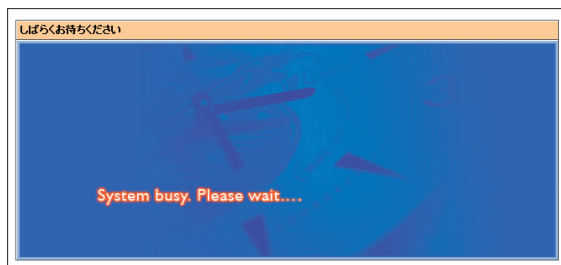
① 選択します

② 入力します

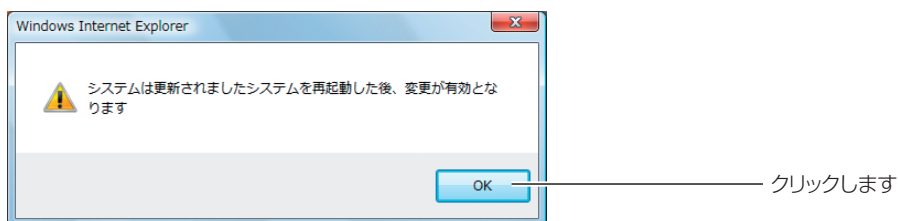
③ クリックします

※画面は例です。

- 4** 次の画面が表示されます。手順5の画面が表示されるまでお待ちください。



- 5** [OK] をクリックして、ブラウザを閉じます。




- 6** 本商品が再起動し、新しいファームウェアが有効になります。

以上で、ファームウェアのアップデートは完了です。

3.3 工場出荷時の状態（初期値）に戻す

本商品を初期化して工場出荷時の状態に戻せます。工場出荷時の状態に戻すには次の方法があります。

 P.107 「3.3.1 初期化ボタンで初期化する」

 P.108 「3.3.2 設定画面で初期化する」



注意

・工場出荷時の状態に戻すと、設定した内容が初期値に戻ります。重要な設定をしている場合は、設定内容をメモに控えておくか、または設定を保存しておいてください。

 P.102 「3.1 設定をバックアップする／元に戻す」

- ・工場出荷時に戻しても、RAID 構成やハードディスクのデータは削除されませんが、あらかじめデータをバックアップしておくことをお勧めします。
- ・工場出荷時に戻す前に、本商品にアクセスしていないことを確認してください。データが破損するおそれがあります。

3.3.1 初期化ボタンで初期化する

- 1** HDD アクセス LED が点滅していないことを確認します。
- 2** 本商品背面の初期化ボタンを 15 秒以上押します。
初期化ボタンを 5 秒ほど押すと、ピッという音が鳴りますがそのまま押し続けて、ピーと長く鳴ったら離します。
- 3** 自動的に電源が切れます。



ピーという音が長く鳴らなかった場合や、自動的に電源が切れなかった場合は、初期化に失敗しています。手順 1 からやり直してください。

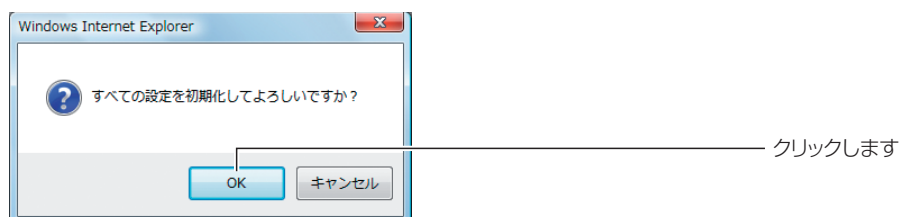
以上で、本商品が工場出荷時の状態（初期値）に戻りました。

3.3.2 設定画面で初期化する

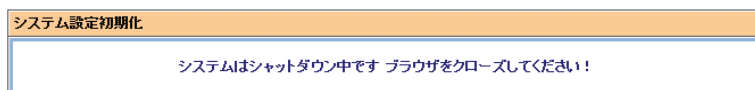
- 1 設定画面を表示します。
- 2 「システム管理」－「システム保護」の順にクリックします。
- 3 システム設定初期化タブをクリックし、[設定を初期化する] をクリックします。



- 4 [OK] をクリックします。



- 5 ブラウザを閉じます。



- 6 本商品が再起動します。

以上で、本商品が工場出荷時の状態（初期値）に戻りました。

第4章

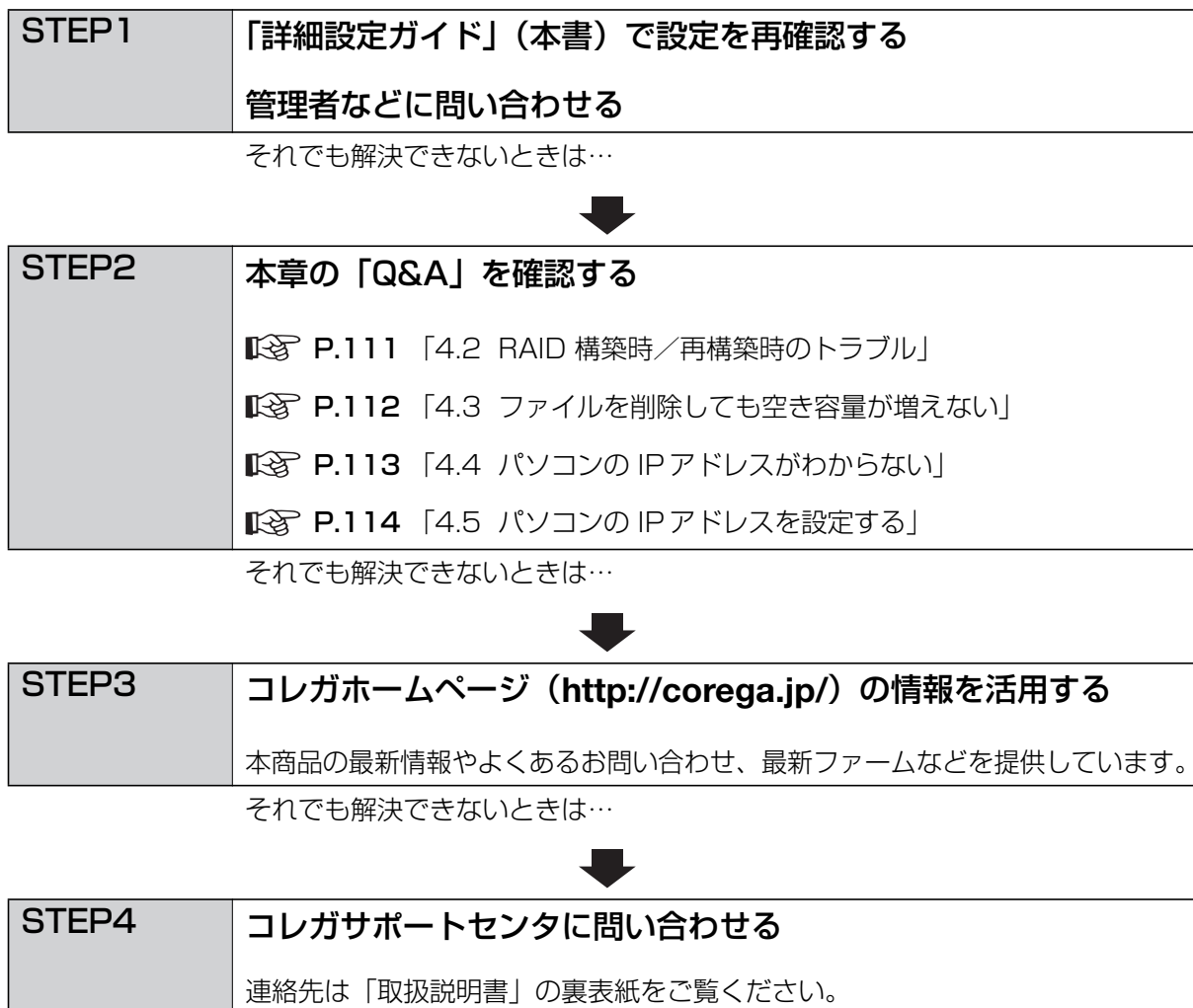
Q&A

この章では、困ったときの確認方法や解決方法を説明します。

4.1	トラブル対処の方法	110
4.2	RAID 構築時／再構築時のトラブル	111
4.3	ファイルを削除しても空き容量が増えない.....	112
4.4	パソコンの IP アドレスがわからない.....	113
4.5	パソコンの IP アドレスを設定する	114


4.1 トラブル対処の方法


本商品を使っていて困ったときは、次のステップに従って対処方法を確認してください。




4.2 RAID 構築時／再構築時のトラブル

RAID 構築時のトラブルは、次の内容を確認してください。

現象	RAID 構築中にハードディスクを取り外してしまった
対処方法	ホットスワップに対応しているため、通常は再度ハードディスクを装着すると自動的に再構築が始まります。もし、正常に再構築できないときは、本商品を再起動してください。再起動後、再構築を開始します。  P.58 「1.8.8 再起動／シャットダウン設定」


現象	ハードディスクが故障した
対処方法	ハードディスクが故障すると、HDD ステータス LED が赤色に点灯します。この場合は、ハードディスクを交換してください。交換するハードディスクは、同一メーカー、同一型番のハードディスクをお使いください。  「取扱説明書」 「2.2 ハードディスクを装着する」

現象	RAID の再構築が自動で始まらない
対処方法	ホットスワップに対応しているため、通常は再度ハードディスクを装着すると自動的に再構築が始まります。もし、正常に再構築できないときは、本商品を再起動してください。再起動後、再構築を開始します。  P.58 「1.8.8 再起動／シャットダウン設定」

4.3 ファイルを削除しても空き容量が増えない

本商品のごみ箱機能に対応しています。

ごみ箱機能を有効にした場合、ファイルを削除すると、ファイルは各フォルダ内の「.RECYCLER フォルダ」（ごみ箱フォルダ）に移動します。ファイルを完全に削除して空き容量を増やす場合は、ごみ箱フォルダでファイルを削除してください。

 P.76 「2.2 ごみ箱機能について」

4.4 パソコンの IP アドレスがわからない

お使いのネットワークの設定や、設定用パソコンの IP アドレスがわからない場合は、次の手順で調べてください。

■ Windows の場合

- 1** [スタート] – 「すべてのプログラム」(Windows2000では「プログラム」) – 「アクセサリ」 – 「コマンドプロンプト」の順にクリックします。
- 2** 「ipconfig /all」と入力してEnterキーを押します。
- 3** IPアドレスを確認します。
 - Windows Vista
「IPv4 アドレス」に表示された数字が設定用パソコンの IP アドレスになります。
 - Windows XP/2000
「IP Address」に表示された数字が設定用パソコンの IP アドレスになります。
- 4** お使いのネットワークの設定を確認します。
 - Windows Vista
「DHCP 有効」が「はい」の場合は IP 自動取得に、「いいえ」の場合は IP 固定設定になります。
 - Windows XP/2000
「DHCP Enable」が「Yes」の場合は IP 自動取得に、「No」の場合は IP 固定設定になります。

■ Macintosh の場合 (10.4 以降)

- 1** アップルメニューをクリックして「システム環境設定」を選択します。
- 2** 「ネットワーク」をクリックします。
- 3** 無線をお使いの場合は「Air Mac」を、有線でお使いの場合は「内蔵 Ethernet」を選択し、「設定」をクリックします。
- 4** 「TCP/IP」タブをクリックし、「IPv4 を設定」をクリックします。
- 5** 「IP アドレス」に表示された数字が設定用パソコンの IP アドレスになります。
- 6** お使いのネットワークの設定は「IPv4 を設定」が「DHCP サーバを参照」の場合は IP 自動取得に、「手入力」の場合は IP 固定設定になります。

4.5 パソコンの IP アドレスを設定する

お使いのパソコンの IP アドレスを設定する手順を説明します。

■ Windows Vista の場合

- 1 「スタート」 - 「コントロールパネル」 - 「ネットワークインターネット」 - 「ネットワーク共有センター」の順にクリックします。



「ネットワークとインターネット」が表示されていない場合は、「ネットワークと共有センター」をクリックして手順2へお進みください。

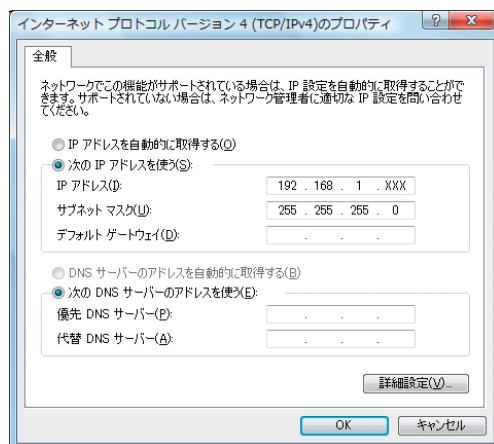
- 2 画面左から「ネットワーク接続の管理」をクリックします。
- 3 「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 4 「ユーザアカウント制御」画面で、[続行] をクリックします。
- 5 「この接続は次の項目を使用します」の一覧から「インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)」を選択し、[プロパティ] をクリックします。



IP アドレスが自動取得の場合は「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」が選択されています。

6 IPアドレスを固定設定にしたい場合は、「次の IP アドレスを使う」を選択し、IP アドレスを入力します。

例として IP アドレスは「192.168.1.XXX」、サブネットマスクに「255.255.255.0」と入力します（XXX は 1 ～ 245 のうち、ほかの機器で使用していない数字）。



7 [OK] または [閉じる] をクリックし、「インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)」 - 「ローカルエリア接続のプロパティ」の順に画面を閉じます。

■ Windows XP の場合

- 1 [スタート] – 「コントロールパネル」 – 「ネットワークとインターネット接続」 – 「ネットワーク接続」 の順に選択します。



「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリ表示を切り替える」を選択します。

- 2 「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

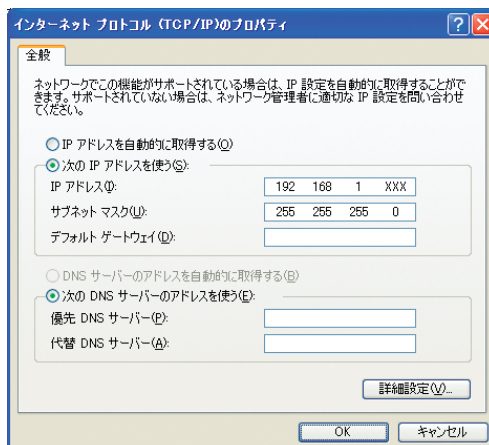
- 3 「この接続は次の項目を使用します」の一覧から「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択し、[プロパティ]をクリックします。



IPアドレスが自動取得の場合は「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」が選択されています。

- 4 IPアドレスを固定設定にしたい場合は、「次のIPアドレスを使う」を選択し、IPアドレスを入力します。

例としてIPアドレスは「192.168.1.XXX」、サブネットマスクに「255.255.255.0」と入力します (XXXは1～245のうち、ほかの機器で使用していない数字)。



- 5 [OK] または [閉じる] をクリックし、「インターネットプロトコルのプロパティ」 – 「ローカルエリア接続のプロパティ」 の順に画面を閉じます。

■ Windows 2000 の場合

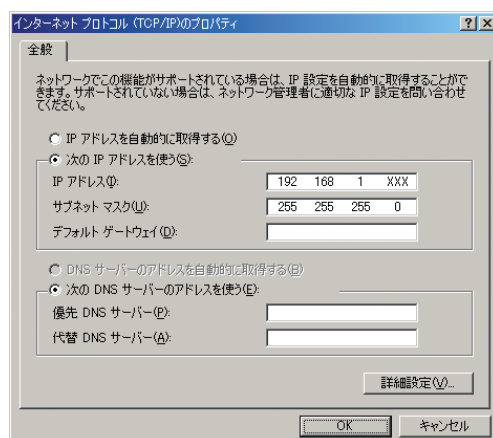
- 1 [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」の順に選択します。
- 2 「ネットワークとダイヤルアップ接続」をダブルクリックします。
- 3 「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
- 4 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択し、[プロパティ]をクリックします。



IP アドレスが自動取得の場合は「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」が選択されています。

- 5 IP アドレスを固定設定にしたい場合は、「次の IP アドレスを使う」を選択し、IP アドレスを入力します。

例として IP アドレスは「192.168.1.XXX」、サブネットマスクに「255.255.255.0」と入力します (XXX は 1 ~ 245 のうち、ほかの機器で使用していない数字)。



- 6 [OK] をクリックし、「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」-「ローカルエリア接続のプロパティ」の順に画面を閉じます。

■ Macintosh の場合 (Mac OS X 10.5 以降)

- 1 アップルメニューをクリックして「システム環境設定」を選択します。
- 2 「ネットワーク」アイコンをクリックします。
- 3 「Ethernet」をクリックします。
- 4 IPアドレスを固定にしたい場合は「手入力」を選択し、IPアドレスを入力します。

例としてIPアドレスは「192.168.1.XXX」、サブネットマスクに「255.255.255.0」と入力します (XXXは1～245のうち、ほかの機器で使用していない数字)。



IPアドレスが自動取得の場合は「DHCPサーバを使用」が選択されています。

- 5 [今すぐ適用] をクリックしたあと、画面を閉じます。

付録

RAID について説明します。

RAID とは	120
おことわり	124

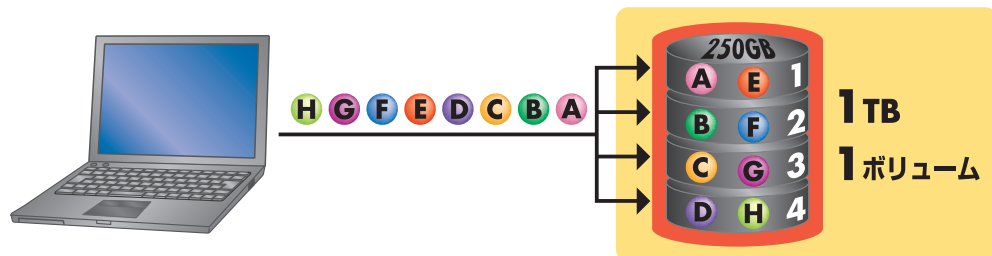
RAID とは

RAID は「Redundant Array of Inexpensive Disks」の略称で「レイド」と呼びます。複数台のハードディスクを並列に接続して、1 台のハードディスク装置のように管理することで、アクセスを高速化したり、障害への耐久性を向上させたりできます。

RAID には高速性や安全性によっていくつかのレベルがありますが、本商品は RAID 0、RAID 1、RAID 5、RAID 10 に対応しています。それぞれの概要を説明します。

■ RAID 0

RAID 0 は、複数台のハードディスクにデータを分散して書き込みます。このため「ストライピング」とも呼ばれています。複数台のハードディスクに分散してデータを読み書きしますのでアクセスが速くなります。ただし、1 台でもハードディスクに障害が発生した場合、データを再生成する機能はありませんので、データの読み書きができなくなります。



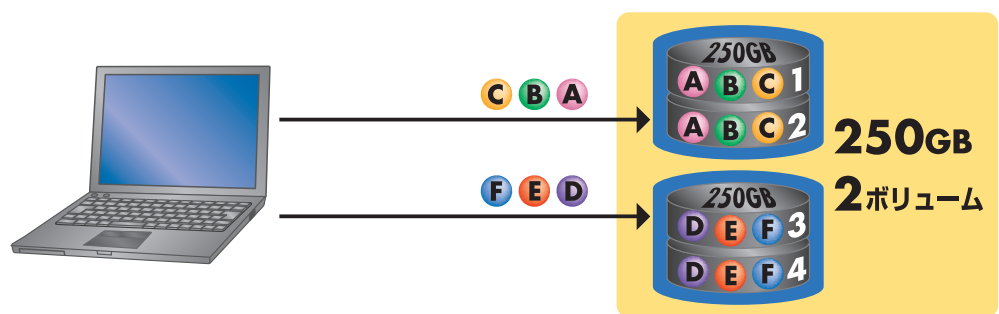
図では、本商品で 4 台のハードディスクを RAID 0 で 1 ボリューム作成する例を示しています。4 台のハードディスクを 1 台とみなして使用しますので、使用できる容量はハードディスク 4 台分（1 テラバイト）になります。

A から H のデータを書き込む場合、A の部分はハードディスク 1 に、B の部分はハードディスク 2…というように書き込まれます。そのため、万が一ハードディスク 1 に障害が発生した場合には、データの A と E の部分が失われてしまいますので、データは復旧できなくなります。

■ RAID 1

RAID 1 は、2 台のハードディスクに同じデータを書き込みます。このため「ミラーリング」とも呼ばれています。1 台のハードディスクに障害が発生しても、もう 1 台のハードディスクに同じデータがあるため、ハードディスクを入れ替えることでデータを再生成することができ、安全性が高いといえます。同じデータを書き込むため、アクセス速度は 1 台のときとそれほど変わりません。

使用できるハードディスクの容量は、「搭載する中でもっとも容量の少ないハードディスク」になります。



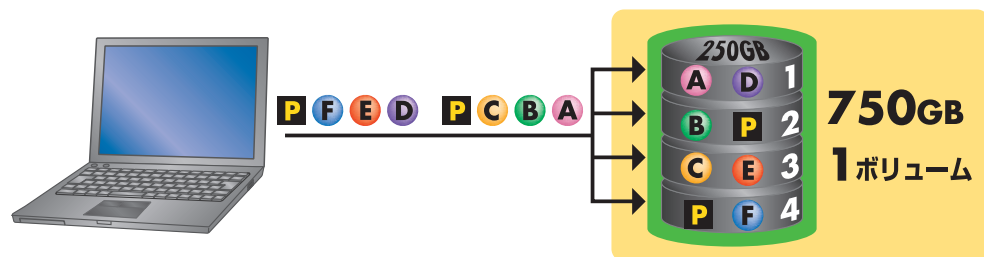
図では、本商品で 2 台のハードディスクを RAID 1 で 2 ボリューム作成する例を示しています。2 台のハードディスクに同じデータを書き込みますので、使用できる容量はハードディスク 1 台分 (250 ギガバイト) になり、それが 2 ボリューム分になります。

A から C のデータを書き込む場合、A から C のすべてのデータをハードディスク 1 と 2 に書き込まれます。そのため、万が一ハードディスク 1 に障害が発生した場合にも、A から C のデータはハードディスク 2 で読み書きできます。また、ハードディスク 1 を取り替えることで RAID 1 を復旧できます。ただし、ハードディスク 1 と 2 に障害が発生すると、データが復旧できなくなる可能性があります。D から F のデータは同様の動作でハードディスク 3 と 4 に書き込みます。

■ RAID 5

RAID 5は、データからパリティ（誤り訂正符号）を生成し、データとともに複数のドライブに分散して書き込みます。1 台のハードディスクに障害が発生しても、ほかのハードディスクにデータとパリティがあるため、ハードディスクを入れ替えることでデータを再生成することができ、安全性が高いといえます。ただし、パリティを生成しながらデータを書き込むのでアクセス速度は少し遅くなります。

使用できるハードディスクの容量は、「搭載するもっとも容量の少ないハードディスク×（台数 -1）」になります。



図では、本商品で4台のハードディスクをRAID 5で1ボリューム作成する例を示します。4台のハードディスクを1台とみなして1台分の容量をパリティとして使用しますので、使用できる容量はハードディスク3台分（750ギガバイト）になります。

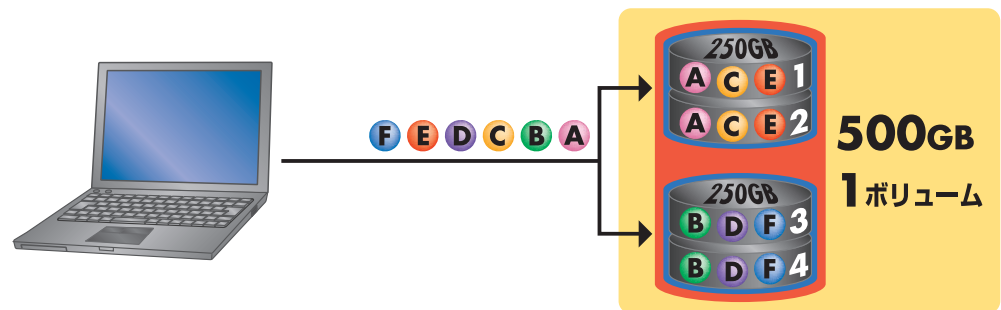
AからFまでのデータを書き込む場合、Aの部分はハードディスク1に、Bの部分はハードディスク2に、Cの部分はハードディスク3に、ABCから生成したパリティはハードディスク4に…というように書き込まれます。そのため、万が一ハードディスク1に障害が発生した場合にも、ハードディスク2のBの部分とハードディスク3のCとハードディスク4のABCから生成したパリティでAの部分を再生成できます。また、ハードディスク1を取り替えることでRAID 5を復旧できます。ただし、2台以上のハードディスクに障害が発生すると、データが復旧できなくなる可能性があります。

■ RAID 10

RAID 10 は、RAID 0 と RAID 1 を組み合わせて、ミラーリングしたボリュームをストライピングします。このため「ミラーセットのストライピング」とも呼ばれています。複数台のハードディスクに分散してデータを読み書きしますのでアクセスが速くなります。

1 台でもハードディスクに障害が発生した場合、データを再生成する機能はありませんので、データの読み書きができなくなります。

使用できるハードディスクの容量は、「搭載するもっとも容量の少ないハードディスク×台数÷2」になります。



図では、本商品で 4 台のハードディスクを RAID 10 で 1 ボリューム作成する例を示しています。4 台のハードディスクのうち 2 台ずつに同じデータを書き込むため、使用できる容量はハードディスク 2 台分（500 ギガバイト）になります。1 台のハードディスクに障害が発生しても、ほかのハードディスクにデータがあるため、ハードディスクを入れ替えることでデータを再生成することができ、安全性が高いと言えます。

A から F のデータを書き込む場合、A の部分はハードディスク 1 と 2 に、B の部分はハードディスク 3 と 4…というように書き込まれます。そのため、万が一ハードディスク 1（または 2）とハードディスク 3（または 4）の 2 台ハードディスクに障害が発生した場合でも、データを復旧することができます。ただし、ハードディスク 1 と 2（または 3 と 4）の 2 台のハードディスクに障害が発生した場合は、データを復旧することができません。

おことわり

- ・本書は、株式会社コレガが作成したもので、すべての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- ・予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
- ・改良のため商品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。

本商品は国内仕様となっており、外国の規格などには準拠しておりません。日本国外で使用された場合、弊社ではいかなる責任も負いかねます。

Copyright©2009 株式会社コレガ

corega は、株式会社コレガの登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Air Mac、Macintosh、Mac OS、Safari は、Apple Inc. の登録商標または商標です。

その他、この文書に掲載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

2009年 5月 初版